

官報

號外

大正十四年二月六日 金曜日

内閣印刷局

○第五十回 衆議院議事速記録第十號

大正十四年二月五日(木曜日)午後一時十九分開議

議事日程 第九號

大正十四年二月五日

午後一時開議

第一 公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 輸出組合法案(政府提出)

第四 重要輸出品工業組合法案(政府提出)

第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第六 在外國帝國事務官留地特別會計法廢止法律案(政府提出)

第七 陸軍營繕費補充資金特別會計法廢止法律案(政府提出)

第八 大學特別會計法中改正法律案(政府提出)

第九 朝鮮營院及濟生院特別會計法廢止法律案(政府提出)

第十 所得稅法中改正法律案(菊池謙二郎君提出)

第十一 商業會議所法中改正法律案(増田義一君提出)

第十二 教育ノ機會均等ニ關スル建議案(山林儀重君外二名提出)

第十三 面醫師法ノ制定ニ關スル建議案(服部英明君提出)

第十四 社會教育局設置ニ關スル建議案(樋口秀雄君提出)

京都市三國立音樂學校設置ニ關スル建議案
提出者 森田茂君

滋賀縣水產講習所設置ニ關スル建議案
提出者 平井光三郎君

高師範學校設置ニ關スル建議案
提出者 小池仁郎君

農村教育改善ニ關スル建議案
提出者 淺川浩君

千代木隆吉君

山本厚三君

澤田利吉君

加藤十四郎君

長尾原田間鐵道ニ關スル質問主意書提出者

司法院運用並司法事務能率增進ニ關スル質問主意書

遠信鐵道速成ニ關スル建議案
提出者

馬淵十郎君

湛增庸一君

黑住成章君

齋藤眞三郎君

山本勝次君

永田善三郎君

長岡外史君

鶴岡市三高等師範學校設置ニ關スル建議案
提出者

木下謙次郎君

小橋一太君

鴻山一郎君

成田則元君

由唐君

津崎尚武君

栗林五朔君

吉木陽君

平田民之助君

東鄉實君

吉木陽君

廣岡宇一郎君

原夫次郎君

高見之通君

原夫次郎君

原夫次郎君

一 論員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
米穀需給調節特別會計法中改正法律案
(以上二月五日提出)
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
裁判所構成法中改正法律案
提出者

二 陸軍軍備ノ整理並行政整理ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十四年一月二十四日
提出者 蟻川五郎作
贊成者 橋山勝太郎
一 陸軍軍備ノ整理並行政整理ニ關スル質問主意書
一陸軍軍備ノ整理ニ就テハ師團數減少
ノ外他ニ適當ノ方法ナキヤ
二 師團數ヲ減スルハ假ニ已ムヲ得スト
シテ砲兵ヲモ減スルハ果シテ機宜ニ
適シタルモノナルヤ
右及質問候也
大正十四年二月三日
内閣總理大臣子爵加藤高明
衆議院議長柏谷義三殿

衆議院議員蟻川五郎作君提出陸軍軍備ノ整理並行政整理ニ關スル質問ニ對シ別紙
答辯書差進候
〔別紙〕

一 今回企圖セル新施設ノ整理ヲ見ル曉
ニ於テハ師團數ヲ減少スルモ國防上
支障ナク又其ノ他ノ方法ニ據ルコトハ
動員作戰ハ勿論經費捻出等ノ關係ニ於
テ適當ナラスト認メ今回實施セントス
ル方法ヲ最良ト信シ之ヲ採用スルコト
トセリ

二 一步砲兵ノ比率ニ關シテハ最近戰役ノ
經驗ニ鑑ミ特ニ審議研究セラレタル所
ニシテ歐米列強ハ相競フテ其ノ比率ヲ
高上センコトヲ努メアリテ我國軍ニ於
ケル該比率カ列強ニ比シ及ハサル狀態
ニ在ルハ争フヘカラサル事實ナルモ元
來國軍ノ裝備ハ其ノ行動スヘキ舞臺ト
敵手ト考ヘ且戰時補給力等ヲモ考慮
シテ決定スヘキモノニシテ目下ノ狀勢
ニ於テハ我國軍砲兵ニ關シテ質ノ改良
ヲ行ヒ其數量ノ如キハ必スシモ歐米列
強軍ト同一ナラシメタルモ妨ナシト考
ヘ茲ニ内外四圍ノ狀勢ニ照シ國防上必
要ノ最小限度ヲ整備シ尙既定ノ繼續費
ノ運用ニ依リテ其他ノ改善ヲ企圖ス
右及答辯候也

大正十四年二月一日

陸軍大臣 宇垣 一成

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サル モ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕

一去三日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ
如シ

員 教育改善及農村振興基金特別會計法案委
員

小西 和君

川崎 実之助君

一柳仲次郎君 神谷 穗平君
蟻川五郎作君 關 俊吉君

丹下茂十郎君 志村清右衛門君

小泉辰之助君

セスカ

折原巳一郎君 齋藤 珪次君
廣瀬 爲久君 木戸 豊吉君
三善 清之君 山崎達之輔君
山本 慎平君 星島 二郎君
（政府提出）

一 昨四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
教育改善及農村振興基金特別會計法案
（政府提出）

委員長

理 事

神谷 弘平君

星島 二郎君

一昨四日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
豫算委員 石坂豊一君（杉宜陳君補闕）

第四部選出

豫算委員 松山常次郎君（宮本逸三君
補闕）

第五部選出

豫算委員 柏田忠一君（大石大君補闕）

第六部選出

豫算委員 平田民之助君（牧野良三君
補闕）

第七部選出

豫算委員 蔡園三四郎君（麓純義君補
闕）

（補闕）

一昨四日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議
長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク指定變更セリ
（補闕）
一一 小林 弘七君
一二 井上 雅二君
一三 嶋居 哲君
一四 四 田友四郎君
一五 佐竹 庄七君
一六 高木益太郎君
一七 大城幸之一君
一八 高木益太郎君
一九 佐竹 庄七君
二〇 丹下茂十郎君
二一 丹下茂十郎君
二二 志村清右衛門君
二三 丹下茂十郎君
二四 丹下茂十郎君
二五 丹下茂十郎君
二六 丹下茂十郎君
二七 丹下茂十郎君
二八 丹下茂十郎君
二九 丹下茂十郎君
三〇 丹下茂十郎君
三一 丹下茂十郎君
三二 丹下茂十郎君
三三 丹下茂十郎君

○議長（柏谷義三君）是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、諸問題項ガアリマス、第三部選出懲罰
委員清水長君、第八部選出豫算委員熊谷
五右衛門君、右兩君ヨリ常任委員辭任ノ申
出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマ
ス、次ニ議事進行ニ關シテ發言ヲ求メラレ
テ居リマス

〔町野武馬君登壇〕

○議長（柏谷義三君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ許可スルコトニ致シマス、其部ノ
豫算委員補闕選舉ヲ行ヒ、御届出アラン
コトヲ希望致シマス——議事ノ進行ニ關シ
テ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマ
ス——町野武馬君

○（鳩山一郎君登壇）
○鳩山一郎君 私ハ一昨日ノ義務教育費增
額ノ問題ニ付キマシテ、其議事中三箇ノ疑
問ヲ懷イタノデアリマス、私ノ懷キマシタ
問ハ、將來議事ヲ進行スル上ニ重大ナル
關係ヲ持ツモノト思ヒマスノデ、ドウカ議
長カラ御深切ナル御釋明ヲ御願致シタイノ
デアリマス、第一ノ疑問ハ、高田耘平君ガ
將ニ討論ヲ終ラントスルニ先チマシテ、私
ハ提案ノ趣旨ノ説明ノ補足ヲ、書記官長並
ニ議長ニ發言ノ通告ヲ致シタノデアリマ
ス、之ヲ何カ故ニ御許シニナラナカッタノ
ヲ妨ゲルコトハ勿論、議場ノ神聖ヲ害シ、
且ツ由テ以テ國威ノ進展ヲ妨ゲルモノニア
ラウト考ヘルノデアリマス、其原因タルヤ
多々アリマセウケレドモ、議員ニシテ議事
ヲ妨害セント試ムル者、或ハ議場ニ於テ低
級ナル妨害ノ言葉ヲ發スル者、或ハ故ラ
ニ挑戰的態度、若クハ應答ヲ爲ス者ガアル
シテ決定スヘキモノニシテ目下ノ狀勢
ニ於テハ我國軍砲兵ニ關シテ質ノ改良
ヲ行ヒ其數量ノ如キハ必スシモ歐米列
強軍ト同一ナラシメタルモ妨ナシト考
ヘ茲ニ内外四圍ノ狀勢ニ照シ國防上必
要ノ最小限度ヲ整備シ尙既定ノ繼續費
ノ運用ニ依リテ其他ノ改善ヲ企圖ス

○議長（柏谷義三君）是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、諸問題項ガアリマス、第三部選出懲罰
委員清水長君、第八部選出豫算委員熊谷
五右衛門君、右兩君ヨリ常任委員辭任ノ申
出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマ
ス、次ニ議事進行ニ關シテ發言ヲ求メラレ
テ居リマス

（鳩山一郎君登壇）
○鳩山一郎君 私ハ一昨日ノ義務教育費増
額ノ問題ニ付キマシテ、其議事中三箇ノ疑
問ヲ懷イタノデアリマス、私ノ懷キマシタ
問ハ、將來議事ヲ進行スル上ニ重大ナル
關係ヲ持ツモノト思ヒマスノデ、ドウカ議
長カラ御深切ナル御釋明ヲ御願致シタイノ
デアリマス、第一ノ疑問ハ、高田耘平君ガ
將ニ討論ヲ終ラントスルニ先チマシテ、私
ハ提案ノ趣旨ノ説明ノ補足ヲ、書記官長並
ニ議長ニ發言ノ通告ヲ致シタノデアリマ
ス、之ヲ何カ故ニ御許シニナラナカッタノ
ヲ妨ゲルコトハ勿論、議場ノ神聖ヲ害シ、
且ツ由テ以テ國威ノ進展ヲ妨ゲルモノニア
ラウト考ヘルノデアリマス、其原因タルヤ
多々アリマセウケレドモ、議員ニシテ議事
ヲ妨害セント試ムル者、或ハ議場ニ於テ低
級ナル妨害ノ言葉ヲ發スル者、或ハ故ラ
ニ挑戰的態度、若クハ應答ヲ爲ス者ガアル
シテ決定スヘキモノニシテ目下ノ狀勢
ニ於テハ我國軍砲兵ニ關シテ質ノ改良
ヲ行ヒ其數量ノ如キハ必スシモ歐米列
強軍ト同一ナラシメタルモ妨ナシト考
ヘ茲ニ内外四圍ノ狀勢ニ照シ國防上必
要ノ最小限度ヲ整備シ尙既定ノ繼續費
ノ運用ニ依リテ其他ノ改善ヲ企圖ス

ナカッタノデアル、高田君ノ反対演説ノ骨子ハ何所ニ在リヤト云ヘバ、二千万圓ノ財源ヲ市サミルト云フ點ニ在ツノデアル、是ガ攻撃ノ焦點デアンダノデアリマス、斯ル場合ニ於キマシテハ、提案者トシテ財源ノ何所ニアリヤト云フコトヲ説明スベキガ當然デアリマス、是ニ於テ私ハ高田君ノ演説半バ聽キマシテ、書記官長並ニ議長ニ對シテ、提案ノ趣旨説明ノ補足ハ何時ニテモ出来ルト思ヒマスカラ、ドウカ高田君ノ演説終了後御許シヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、而シテ田口書記官ハ田中隆三君ノ發言通告ヲ認メテ與レマシテ、之ヲ書記官長ノ手許ニ提出ヲ致シタノデアリマス、是ハ高田君カ討論ヲ終局ナサル以前ノ出來事デアル、討論ガ終リマシテ、何ガ故ニ議長ハ直ニ此提案ノ趣旨説明ヲ御許シニナラナカッタノデアルカ、私解スルコトガ出來ナイノデアル(拍手)憲政會ヲ代表サレマシテ、高田君ハ明ニ提案者ノ説明ヲ煩シタイコトガアル、憲政會ノ諸君ハ我黨ニ對シテ説明ヲ求メラレテ居ルノデアリマス、求メラレタ憲政會ノ諸君カ其説明ヲ聽カズシテ、直ニ討論終結ノ動議ヲ出サレルト云フコトハ、丁度闇夜二人ヲ擲リ付ケマシテ、逃ゲタヤウナ弱虫ノヤリ方デアルト考ヘマス、斯ノ如キ不法不當ノ――私ハ法規先例ニモ違テ居ルト思フカラ不法ト申上ダルノデアル、而シテ事實ニ於テモ如何ニモ不都合ト思ヒマスガ、此不當不法ナル所ノ議事ノ進行ノ仕方が將來ニ繼續致ストキニハ、私ハ議會ノ爲ニ甚ダ遺憾デアルト思フノデアリマス、是ガ故ニ此點ニ付テ議長ノ御釋明ヲ煩シタイノデアリマス、第二ノ問題ハ討論ニ這入リマシテ、反対ノ意見ノ陳述ガアタノデアリマス、之ニ對シテ討論ト云フコトハ勿論何人モ承知シテ居リマス通りニ、賛成論アリ、反對論アリ、交互通論ヲスルガ故ニ之ヲ討論ト云フノデアルカト云フコトヲ伺ヒタインデアリマス(拍手)、反対者ノミニ議論ヲ以テシテハ、是ハ

討論ト云フコトハ出來マセヌ、討論ガナケレバ從フテ討論終結ト云フコトモ出テ來ナシ筋合デアル（拍手）私ハ如何ナル理由ヲ以テ議長ハ賛成者側ニ發言ヲ許サナカッタノデアルカ、此點ヲ承リタイ（拍手）今マデノ先例ニ依リマスレバ、賛成者一人ヲ許シ、若クハ反対者一人ヲ許シタ後討論終結ノ動議ガ起フタ事モアリマスガ、議長ノ計ラヒニ依テ、賛成者アル場合ニ於テハ反対者成者ノ討論ヲ許シタ先例ガアルノデアリマス（拍手）而シテ議長ガ發言ヲ許セバ、其後ニ於テハ討論終結ノ動議ガ如何ニ先決問題タリト雖モ、發言ヲ許シタ後三於キマシテハ討論終結ノ動議ノ採否ヲ議場ニ問フコトハ出來ナイト云フコトニナシテ居ルノデアル、故ニ議長ガ討論終結ノ動議ガ假令アリマシテモ、議長ノ計ラヒニ依テ賛成者側ニ討論ヲ御許シニシタルト云フコトハ、議長ノ職權デ出來テ、而シテ其後ニ於テ討論終結ノ動議ヲ採決スルコトカ最モ至當デアラウト思フ、何ガ故ニ議長ハ其舉ニ出ナカッタノカ、私ニ分ラナイノデアリマス、三木武吉君が嘗テ樋口君外三名ノ提出ニナンタ教育振興ニ關スル建議案ニ付テ御述ニナッタ事ガアルノデアル、議事進行ニ付テ發言ガアルト云フコトデ三木君が發言ヲ求メラレマシテ、其中ニ斯ウ云フ事が書イテアリマス（既ニ我黨ヨリ提出致シマシタル教育促進ニ關スル建議案ハ多數ヲ以テ否決セラレマシタ、吾々國民教育ノ上ニ於テ非常ニ痛苦ヲ感ズルノデアリマス、元來現内閣、原内閣ハ世人之ヲ稱シテ政黨内閣ト稱シテ居ルノデアリマス、然ルニ、然ルニデス、現君モ亦自ラ立憲内閣ト稱シテ天下ニ呼號シテ居ルノデアル、所謂立憲内閣、所謂政黨内閣ノ神髓ハ國民ノ輿論ヲ尊重シ、國民ノ聲ヲ十分ニ徹底のニ、此議論ニ現ハスコトガ其眞諦デアルト謂ハナケレバナラヌ、吾言葉ヲ藉リテ、遂ニ本案ヲ否決シ去タト

云フコトハ、返ス々々モ遺憾デアリマス、
遺憾デアリマスガ、諸君自身、自ラ省ミテ
又愧ズル所ガアラウト思ヒマス」斯ウ云フ
コトヲ言ハレタトキニ、議場ガ少シ騒ガシ
クナリマシテ、議長カラ注意ガアリ、三木
君ハ更ニ進ンデ發言ヲ繼續サレマシテ「此
重大ナル案ヲ前例デ多ク見ザル態度ヲ以テ
即決否決ヲ爲シタリト云フコトハ、多數國
民ノ頗ル遺憾トスル所デアラウト思フ、番
ニ、番ニデス、即決否決ヲ爲シタルノミナ
ラズ、僅ニ提案者ト賛成者一人ノ演説ノミ
ヲ許シテ、多數ヲ以テ其他ノ言論ヲ抑壓ス
ルト云フコトハ、果シテ諸君ガ平素主張ス
ル立憲内閣、或ハ政黨内閣ト云フ面目ニ對
シテ恥ヅル所ナキヤト云フコトヲ吾々ハ怪
ムノデアル、吾々ハ諸君ニ對シテ斯ノ如キ
暴狀、斯ノ如キ横暴ヲ逞シウスル與黨諸君
ニ警告ヲ致シタイト思ヒマス」斯ウ云フ演
説ヲサレタノデアル、此場合ハ樋口秀雄君
ガ提案ノ趣旨說明ヲ長ミシクオヤリニナリ
マシテ、又小久保君カラシテ之ニ對シテノ
質問ガアリ、政府ニ對シテノ質問ガアリマ
シテ、原内閣總理大臣ハ又詳細ニ此質問ニ
答辯ヲサレマシタ、ソコデ早速君カラ委員
會ニ移スベシト云フヤウナ御詰ガアッテ、是
カ否決ニナツテ討論ニ入シタノデアル、討論
ニ入リマシタ後ニ大津淳一郎君ガ賛成ノ意見
見ヲ述ベラレ、サウシテ小久保喜七君ガ反
対ノ意見ヲ述ベラレタ、趣旨聲明ヲシテ其
ニ對シテ、殆ド説明ニ値スル説明ノ無イノ
トハ雲泥ノ違ヒガアルノデアリマス（ヒヤ
ヒヤ「拍手」）其十分ナル説明ガアッタ後ニ、
尙ホ贊成反対ノ兩論ヲ許シテ、サウシテ採
決ヲシタノデアル、ソレニ對シテスラデ
ス——ソレニ對シテスラ三木君ハ僅ニ提案
者ト、賛成者ト、反対者ノ一人ヅシヲ許シ
テ否決シタト云フコトハ、何等ノ暴狀、何
等ノ横暴デアルカ、自ラ省ミヨト云フコト
ヲ其當時ノ與黨諸君ニ警告シタノデアル
（拍手）今日此問題ト只今ノ問題トヲ比較シ

マスルト、形ノ上ニ於キマシテモ一方ハ建議案デアリ、今日ノ案ハ法律案デアル、其大小輕重自ラ違テ居ルノデアル、而モ義務教育費ノ問題ハ抽象的ノ議論ハ之ヲ避ケマシテモ、此議場ニ於テ、此議會ニ於テ國民ノ輿論ノ聲デアルト云フコトハ何人モ疑ハナイト私ハ思フノデアル、（拍手）三木君名目ニ對シテ耻ヅル所ナキヤト言ハレタ（拍手）國民ノ聲ヲ——輿論ヲ此所ニ發表ヲセシメナカッタノハ先達テノ與黨諸君ノ行動デアラウト私ハ思フノデアル（拍手）此與黨諸君ハ護憲運動ト云フモノヲ起サレテ、衆議院ヲシテ政治ノ中心勢力ニシャウトサレタ方デアルノデアル、政治ノ中心勢力ニシャウト御効キニナルコトニ付テハ、私感謝ヲ致スノデアリマスケレドモ、其議會ニナ於ケル行動ト云フモノハ、旗幟トサレル所ノ中心運動トハ全然矛盾シテ居ルト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアル（拍手）議長ハ——議長ハ何ガ故ニ議長ノ職權ニ於ケ、議長ノ取計ヒニ於キマシテ賛成論者ニ御許シニナラナカッタノデアルカ、之ヲ私ハ伺ヒタインデアリマス、第三ニ私ノ懷イテ居リマス所ノ疑問ハ、討議終結ノ動議が提出セラレマスト、ソレニ續イテ松田　中村　兩總務カラ發言ヲ求メテ委員付託ノ動議ヲ提出セントシタノデアル、委員付託ノ論が出マスレバ——動議が出来マスレバ討論終結ノ動議ヲ出シタ後ト雖モ、其採擇以前テアル場合ニ終結ノ動議が出来ルト、其前ニ求メテ居ル所ノ發言ヲ許サレナカッタノハ如何ナル譯デアルカ、之ヲ伺ヒタイ（拍手）早速君ガ矢アル、然ルニ議長ハ其擧ニ出デズシテ、討論終結ノ動議が出来ルト、其前ニ求メテ居ル所ノ發言ヲ許サレナカッタノハ如何ナル譯建議案ハ重大ナル建議案デアリマス、之ヲ張其教育作興ニ關スル建議案ニ於キマシテ直ニ此所デ否決スルト云フコトハ甚ダ其意ヲ得ナイノデアル、總テノ下ラヌ建議ト思

ハル、ヤウナモノデモ、從來委員會ニ於テ
政府ト折衝ヲスル、何所マデモ其審査ヲ遂
ダルト云フコトガ長イ間ノ議會ノ慣例デア
リマス」ト云ノコトヲ早速君が述ベラレタ
ノデアル、下ラナイ建議案十思ハレルモノ
デモ委員會ニ付サレルノニ、何ガ故ニ此重
大ナ建議案ヲ委員會ニ付セヌカト云フコト
ヲ質問サレタノデアル、此案ト此間ノ案ト
ヲ比較ヲシマスレバ、矢張委員會ニ付サン
キガ正當デアル（拍手）之ヲ委員會ニ付サン
トスル動機ヲ聞カラ聞ニ尋テシマッタト云
フコトハ、矢張議長ノ御取扱ノ仕方ガ餘り
ヲ比較ヲシマスレバ、矢張委員會ニ付スベ
ト先例其他等ヲ調べマシテ、考慮致ス考デ
アリマス、第二ニ何故ニ討論ヲ一人シカ許
サナイカ、此點ニ付キマシテモ亦前ト同ジ
事デアリマシテ、成程當日ノ討論ヲ、贊否
兩論ヲ十分ニ盡サレナイコトハ、議長ニ於
テモ甚ダ遺憾ニ感ジマス、併ナガラ既ニ法
規ニ依テ討論終結ノ動議が提出セラレマ
シタ以上ハ、之ニ就テ採決致シマスルコト
ハ洵ニ已ムヲ得ナカツタノデアリマス、ソレ
カラ第三ニ何故ニ委員付託ノ動議ヲ出シテ
置イタノニ、之ヲ採決ヲシナカツカ、如何ニ
モ委員付託ノ動議ト討論終結ノ動議トハ、
委員付託ノ動議ガ先決問題デアリマス故ニ、
若シ是ガ同時ニ出マスレバ、議長ハ無論
モ委員付託ノ動議ヲ先以テ採決ヲ致シマス、
併ナガラ當日ハ討論終結ノ動議ニ付テ採決
ヲ宣告致シマシタ、其後ニ於テ此委員付託
ノ動議ガ議長ノ手許ニ出タノデアリマス
(拍手)「ノウー」斯ル次第デアリマシテ、
私ハ此點ニ於テ何等偏頗ノ處置ヲ致シタ考
ハ持ンテ居ラヌノデアリマス鷹山君ノ御述
ニナリマシタコトハ、大體ニ於テ議長モ御
同感ニ考ヘ居ルノデアリマス、將來十分
ニ是等ノ點ニ付テモ注意ヲ致ス考デアリマ
ス（拍手）

○議長（柏谷義三君） 只今……（此時私語
スル者アリ）靜甫ニ御聽ヲ願ヒマス、鷹山君
ヨリ議長ニ對シテ去ル三日ノ議事中ニ起り
マシタ事ニ付テ、數多ノ質問ヲ發セラレマ
シタ、之ニ御答ヲ致シマス、第一ハ、何故ニ
彼ノ當時ニ於テ趣旨辨明ノ補足ヲ許サナ
カタカト云フ御質問デアリマシタ、是ハ
御承知ノ通り議長ハ其當時田中隆三君ヨリ
趣旨辨明ノ補足ヲシタイト云フ申出ヲ受領
シテ居リマシタ、其發言ヲ許サントスル刹
那、作問君ヨリ討論終結ノ動議が提出セラ
レマシタ、議長ハ討論終結ノ動議ヲ以テ先
決問題ト考ヘテ居リマシタ爲ニ、此趣旨辨
明ヲ許スノ時ニアラズト考ヘテ採決ヲ致シ
タ次第デアリマス（拍手）併ナガラ此先例
ガ——此議長ノ考ガ果シテ誤ツテ居ルト云フ

コトデゴザイマスルナラバ、議長ハ無論之
ヲ改メルニ客ナル者デハナイノデアリマス
(拍手)此點ニ付キマシテハ、議長ハ尙ホ篤
ノ德アル、下ラナイ建議案十思ハレルモノ
デモ委員會ニ付サレルノニ、何ガ故ニ此重
大ナ建議案ヲ委員會ニ付セヌカト云フコト
ヲ質問サレタノデアル、此案ト此間ノ案ト
ヲ比較ヲシマスレバ、矢張委員會ニ付スベ
ト先例其他等ヲ調べマシテ、考慮致ス考デ
アリマス、第二ニ何故ニ討論ヲ一人シカ許
サナイカ、此點ニ付キマシテモ亦前ト同ジ
事デアリマシテ、成程當日ノ討論ヲ、贊否
兩論ヲ十分ニ盡サレナイコトハ、議長ニ於
テモ甚ダ遺憾ニ感ジマス、併ナガラ既ニ法
規ニ依テ討論終結ノ動議が提出セラレマ
シタ以上ハ、之ニ就テ採決致シマスルコト
ハ洵ニ已ムヲ得ナカツタノデアリマス、ソレ
カラ第三ニ何故ニ委員付託ノ動議ヲ出シテ
置イタノニ、之ヲ採決ヲシナカツカ、如何ニ
モ委員付託ノ動議ト討論終結ノ動議トハ、
委員付託ノ動議ガ先決問題デアリマス故ニ、
若シ是ガ同時ニ出マスレバ、議長ハ無論
モ委員付託ノ動議ヲ先以テ採決ヲ致シマス、
併ナガラ當日ハ討論終結ノ動議ニ付テ採決
ヲ宣告致シマシタ、其後ニ於テ此委員付託
ノ動議ガ議長ノ手許ニ出タノデアリマス
(拍手)「ノウー」斯ル次第デアリマシテ、
私ハ此點ニ於テ何等偏頗ノ處置ヲ致シタ考
ハ持ンテ居ラヌノデアリマス鷹山君ノ御述
ニナリマシタコトハ、大體ニ於テ議長モ御
同感ニ考ヘ居ルノデアリマス、將來十分
ニ是等ノ點ニ付テモ注意ヲ致ス考デアリマ
ス（拍手）

○議長（柏谷義三君） 鳥山一郎君 議長
○鳥山一郎君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ申上ダタイト思ヒマス、御許シヲ願ヒマ
スロ今議長ノ御釋明ニ依リマシテ、先例ヲ
御調べ下サテ宜シキニ從フト云フヤウナ御
話ガアッタノデアリマス、洵ニ結構ナ御答
辯ト私ハ拜聽スルノデアリマス、一言申上
ダテ置キタインハ、先例ハ區々ニナテ居ル
ノデアル、併ナガラ反對賛成ノ一方ノ發言
ヲ致シマシタ場合ニ、一方ダケガ終リマシ
タ時ニ討論終結ノ動議ガ起ツテ、而モ尙ホ
ス、尙ホ討論ト云フモノハ討論ヲシナイ中

ニハ言ヘナイノデアルカラ、討論前ニ討論
終結ノ動議ヲ出シタル場合ニ、其採決ヲ致
(拍手)此點ニ付キマシテハ、議長ハ尙ホ篤
ト先例其他等ヲ調べマシテ、考慮致ス考デ
アリマス、第二ニ何故ニ討論ヲ一人シカ許
サナイカ、此點ニ付キマシテモ亦前ト同ジ
事デアリマシテ、成程當日ノ討論ヲ、贊否
兩論ヲ十分ニ盡サレナイコトハ、議長ニ於
テモ甚ダ遺憾ニ感ジマス、併ナガラ既ニ法
規ニ依テ討論終結ノ動議が提出セラレマ
シタ以上ハ、之ニ就テ採決致シマスルコト
ハ洵ニ已ムヲ得ナカツタノデアリマス、ソレ
カラ第三ニ何故ニ委員付託ノ動議ヲ出シテ
置イタノニ、之ヲ採決ヲシナカツカ、如何ニ
モ委員付託ノ動議ト討論終結ノ動議トハ、
委員付託ノ動議ガ先決問題デアリマス故ニ、
若シ是ガ同時ニ出マスレバ、議長ハ無論
モ委員付託ノ動議ヲ先以テ採決ヲ致シマス、
併ナガラ當日ハ討論終結ノ動議ニ付テ採決
ヲ宣告致シマシタ、其後ニ於テ此委員付託
ノ動議ガ議長ノ手許ニ出タノデアリマス
(拍手)「ノウー」斯ル次第デアリマシテ、
私ハ此點ニ於テ何等偏頗ノ處置ヲ致シタ考
ハ持ンテ居ラヌノデアリマス鷹山君ノ御述
ニナリマシタコトハ、大體ニ於テ議長モ御
同感ニ考ヘ居ルノデアリマス、將來十分
ニ是等ノ點ニ付テモ注意ヲ致ス考デアリマ
ス（拍手）

○議長（柏谷義三君） 鳥山一郎君 議長
○鳥山一郎君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ申上ダタイト思ヒマス、御許シヲ願ヒマ
スロ今議長ノ御釋明ニ依リマシテ、先例ヲ
御調べ下サテ宜シキニ從フト云フヤウナ御
話ガアッタノデアリマス、洵ニ結構ナ御答
辯ト私ハ拜聽スルノデアリマス、一言申上
ダテ置キタインハ、先例ハ區々ニナテ居ル
ノデアル、併ナガラ反對賛成ノ一方ノ發言
ヲ致シマシタ場合ニ、一方ダケガ終リマシ
タ時ニ討論終結ノ動議ガ起ツテ、而モ尙ホ
ス、反對ノ諸君ハ青票デアリマス——閉
鎖——氏名點呼ヲ命ジマス

○議長（柏谷義三君） 投票漏ハアリマセス
——投票漏ナシト認メマス——投票漏閉
鎖——開匣——開鎖——投票ノ結果ヲ書記
官長ヨリ報告セシメス

（書記官氏名ヲ點呼ス）
○議長（柏谷義三君） 投票漏ハアリマセス
——投票漏ナシト認メマス——投票漏閉
鎖——開匣——開鎖——投票ノ結果ヲ書記
官長ヨリ報告セシメス

（中村書記官長期讀）

齊藤眞三郎君 湯浅 凡平君

關 直彦君 砂田 重政君

磯部 保次君 坂東幸太郎君

本田 義成君 岡田 溫君

若尾 瑞八君 山口 左一君

藤井忠兵衛君 兒玉 右二君

秋田寅之介君 森 麻起君

○議長(柏谷義三君) 是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一、公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案第一讀會ヲ開キマス

第一 公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

公立學校職員年功加俸國庫補助法中改

正法律案

私立學校職員年功加俸國庫補助法中左ノ通改正ス

第一條中「公立ノ中學校、高等女學校及實業學校」ヲ「公立ノ高等學校、常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、瞽啞學校及實業補習學校教員養成所」ニ改ム

附 則
本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行

○砂田重政君 只今ヨリ豫算委員會第四分科會ヲ開キタイト思ヒマス、御許ヲ願ヒマス——委員ノ諸君ハ第六委員室ニ御集リテ願ヒマス
○議長(柏谷義三君) 岡田文部大臣

(國務大臣岡田良平君登壇)

○國務大臣(嗣田良平君) 只今議題ニナリ

マシタル公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、現行ノ公立學校職員年功加俸國庫補助法ニ依リマスレバ、公立ノ高等學校尋常科ノ教員、公立ノ盲啞學校職員及公立實業補習學校職員、教員養成所職員ニハ年功加俸ヲ支給致サヌコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ者ニハ同ジク年功加俸ヲ支給スルノ必要ガアリマスノデ、別ニ之ニ要スル豫算ヲ要求致シテアリマス、ソレニ伴テ此改正案ヲ提出致シタ次第アリマス、何

卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希

望致シマス

○議長(柏谷義三君) 日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シ

マス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

/選舉

○加藤政之助君 諸君第三分科會ヲ開キタ

イト思ヒマス——三分科ノ諸君ハ委員室へ御集リテ願ヒマス

○作間耕造君 本案ハ教育改善及農村振興基金特別會計法案ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(柏谷義三君) 作間君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——伊坂秀五郎君ヨリ議事ノ進行ニ付テ發言ヲ求メラレシタ、發言ヲ許シマス、伊坂秀五郎君

○伊坂秀五郎君(登壇)

○伊坂秀五郎君 議長ハ先刻吉良元夫君其

他數君ニ對シテ懲罰ノ御宣告ガアリマシタ、而シテ私思フニ二月三日ノ議場ニ於キマシテ、猪野毛君ハ我國議會アツテ以來院内ニ於テ會テ無キ流血ノ慘禍ヲ受ケラレタ人ニアリマス、然ルニ此流血ノ慘禍議長ハ眼下ニ御覽ニナッテ、是等ノ事ニ付テ何等御取調ガナク(拍手)而シテ之ヲ懲罰ニ付スルニ攻究ヲ爲サラナイト云フコトハ、吾々我國議會政治ノ上ニ於テ甚ダ不祥ナル事柄デアラウト思フ(嘘ヲ言フナ)ト呼フ者アリ)決シテ嘘ナシテ、猪野毛君ハ現ニ流血ノ慘禍ヲ被テ居ル(休憩中ダ)「休憩中ダ」ト呼

○議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス、即チ日程第三、輸出組合法案、日程第四、重要輸出品工業組合法案、右兩案ノ第一讀會ヲ開キマス、高橋農商務大臣

○議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス

○議長(柏谷義三君) 只今伊坂君ヨリ、猪野君ノ件ニ關シテ御希望ガアリマシタガ、猪野毛君ハ諸君ノ御承知ノ如ク、議長ノ命令ニ對シテ抗拒セラレマシタノデ、議長ハ

守衛ヲシテ退場セシムルコトニ取計ラヒマシタノデアリマス、當時議場ハ非常ナル所

ノ混亂ヲ致シマシタカラ、議長ハ休憩ヲ宣告致シマシタ(ヒヤー)拍手)猪野毛君ノ

事柄ハ恰モ其休憩中ニ起リマシタ(ノウ)ウ休憩中デハナイ其他發言スル者多シ

御靜ニナサイ——靜肅ニナサイ——御聽キナサイ——靜肅ニナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——靜肅ニナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——議場騒然併ナガラ——黙テ御聽キナサ

聽キナサイ——議長ハ休憩中ト認メマス——黙テ御聽キナサイ——暫クドウソ御聽キナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——靜肅ニナサイ——議長ニ對スル報告ガアリマス、何

御聽キナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——議場騒然併ナガラ——黙テ御聽キナサ

御聽キナサイ——議長ハ休憩中ト認メマス——黙テ御聽キナサイ——暫クドウソ御聽キナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——靜肅ニナサイ——議長ニ對スル報告ガアリマス、何

御聽キナサイ——議長ハ伊坂君ヨリス——議場騒然併ナガラ——黙テ御聽キナサ

一組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ幹旋、保管、選別、包装、荷造其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

出ノ幹旋、保管、選別、包装、荷造

ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル制限

三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

輸出組合ノ營業上ノ弊害ヲ矯正スル

ヲ得

ス

ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ登記ス

到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條 輸出組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ

組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他

必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ク創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項

ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十六條 輸出組合六出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ各事務所ノ所在地

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有ス

第十八條 組合員ノ責任ハ第六條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度

トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項

及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第十一條 事業及其ノ執行ニ關スル規定

第十二條 役員ニ關スル規定

第十三條 會議ニ關スル規定

第十四條 會計ニ關スル規定

第十五條 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條 輸出組合六出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ登記スヘキ事項左ノ如シ

第十五號ニ掲ケタル事項
二 事務所
五 理事及監事ノ氏名及住所
三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ額
四 設立認可ノ年月日
五 理事及監事ノ氏名及住所
前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項
第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後
一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有ス
超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加
トルコトヲ得
第十八條 組合員ノ責任ハ第六條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度

トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ収支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 組合員タル資格ヲ有スル者ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル

條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第二十二條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫告ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル

條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫告ヲ得タル場合ニハ事業年度の終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第二十五條 檢查ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

第二十六條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受

得

第二十七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

三十條 組合員ハ總會ニ於テ各一個

ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
第二十二條 經費一部ヲ組合員ニ分賦支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ収支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ
前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ前項ニ依リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル

條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫告ヲ得タル場合ニハ事業年度の終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第二十五條 檢査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

第二十六條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受

得

第二十七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

三十條 組合員ハ總會ニ於テ各一個

第三十條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前項ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス
又ハ出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス
第三十一條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理書面ヲ添附スヘシ
第三十二條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理書面ヲ添附スヘシ
第三十三條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項第四十八條、第五十條第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至

第八十一條 非訟事件手續法第二百三十八條、第二百五十九條ノ二、第二百四十一條乃至第二百五十一條ノ六、第二百五十四條乃至第二百五十八條、第二百六十五條、第二百七十五條、第二百七十六條及第二百七十八條並産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ一、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十九條乃至第四十條、第四十一條第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條乃至第三十九條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第一百四條ノ規定ハ法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ主務大臣トス

第三十四條 主務大臣ハ本法ニ依ル職權週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合ノ一部ヲ地長官又ハ監督官廳トアルハ之第三十五條 左ノ場合ニ於テハ輸出組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

四 本法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ微スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサトキ

五 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ハサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正常ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戾シタルトキ

八 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨済ヲ爲シ又ハ組合財產ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

十五 第三項及第四十八條第一項中第一項第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第一百四條ノ規定ハ法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之第三十五條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第一百四條ノ規定ハ主務大臣トス

第三十六條 第九條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者八十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者八十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十九條 輸出組合ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 輸出組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ其ノ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ

行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十一條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十二條 第三十九條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例二、第四十條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第五條 工業組合ハ定款ノ定ム所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條 工業組合ハ定款ノ定ム所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ検査其ノ他ノ施設ヲ命スルコトヲ得

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ命令ノ定ム所ニ依リ工業組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第九條 工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アリトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ

第十二條 工業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類ニ依リ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲ス

第四條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フヘシ

第五條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ検査其ノ他ノ施設ヲ命スルコトヲ得

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第九條 工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アリトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ

第十二條 工業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類ニ依リ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲ス

同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト
雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官

廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコ
トヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員
ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ

同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ
工業ノ種類二以上アルトキハ各其ノ三

分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ
代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ
得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タ
ルコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出ス
ヘシ

第十五條 工業組合ノ定款ニハ左ノ事項

ヲ記載スヘシ

一 目的

二 名稱

三 地區

四 事務所ノ所在地

五 組合員タル資格ニ關スル規定

六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規
定

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定

十二 役員ニ關スル規定

十三 會議ニ關スル規定

十四 會計ニ關スル規定

十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定
メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
登記スヘキ事項左ノ如シ

十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂
込アリタル後一週間に内各事務所ノ所在
地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十五號 第一號乃至第三號、第七號及
二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ
二 事務所

四 總額
設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ケタル事項ニ付テハ每事業
年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後
一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有ス
超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル
トキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加
スルコトヲ得

第十八條 組合員ノ責任ハ第五條ノ規定
ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度
トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分の一
以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項
及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ
理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スル
コトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定
ニ依ル請求アリタル後二週間に内總會
招集ノ手續ヲ爲サルトキハ請求者ハ
行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコ
トヲ得

第二十條 工業組合ニハ理事及監事ヲ置
クヘシ

第二十一條 行政官廳必要ト認ムルトキ
クヘシ

第二十二條 組合員ノ定款ニ依リ準用シタル產業
組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ
外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ
第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合
聯合會及組合員トス

第二十三條 工業組合ニ關スル規定ハ第
三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業
組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ
外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ
第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合
聯合會及組合員トス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ一定ノ期間前三豫告ヲ爲シ工業組
合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ
終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾
ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 檢查ヲ行フ工業組合ニ在リ
テハ検査員ヲ置クヘシ

第二十六條 工業組合ハ檢査員ノ服務ニ
關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受
クヘシ

第二十七條 行政官廳必要ト認ムルトキ
ハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ
得

第二十八條 行政官廳必要ト認ムルトキ
ハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其
ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命ス
タルコトヲ得

第二十九條 工業組合聯合會ハ所屬ノ工
業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的
ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

第三十條 工業組合聯合會ヲ設立セムト
スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬
ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創
立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其
ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ
行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 創立委員會ニ於ケル議決及
役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二
以上ノ同意アルコトヲ要ス

第三十二條 工業組合聯合會ノ理事及監
事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ
理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ
聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委
員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

第三十三條 工業組合ニ關スル規定ハ第
三十四條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ
全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
申請書ニハ定款及創立總會、總會又ハ
創立委員會ノ決議錄、出資ノ總口數ヲ
證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリ
タルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ
資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條 事務所ノ新設、移轉其ノ他
登記事項ノ變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲
スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面
及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附
スヘシ

超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ

申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス
出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコトヲ要セス
者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨済ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
第三十六條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ヲ爲スヘシ
第三十七條 清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
第三十八條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十一条、第五十二條第二項、第五十五条、第五十九條、第六十条、第六十一條第一項、第六十二条、第六十四條、第六十六條、第七十一条、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第一百三十八條、第一百三十九條ノ二、第六十條、第六十一條第一項、第六十二条、第六十四條、第六十六條、第七十一条乃至第一百五十一條ノ六、第一百五十四条乃至第一百五十八條、第一百六十條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十八條並産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ二乃至第四十一條、第四十二條、第十四條乃至第四十六條、第四十八條、第

五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條（第一項第四条ヲ除ク）、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六六條第一項、第六十七條、第六十九條第一項、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十八條、第六九條第一項、第六十七條、第六十九條第一項、第七十條乃至第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第一百三十八條、第一百三十九條ノ二、第六十條、第六十一條第一項、第六十二条、第六十四條、第六十六條、第七十一条乃至第一百五十一條ノ六、第一百五十四条乃至第一百五十八條、第一百六十條、第一百七十五條、第一百七十六條、第一百七十八條並産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ二乃至第四十一條、第四十二條、第十四條乃至第四十六條、第四十八條、第

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨済ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ
十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ
十五 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
二 行政官廳ニ於テ其ノ認可ヲ受ク
三 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不正ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ
四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ノサルトキ
五 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ
六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ受ケタルトキ又クシテ其ノ閱覧ヲ拒ミタルトキ
七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戾シタルトキ
八 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ受取シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ
十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ

減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ
十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨済ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ
十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ
十五 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
二 行政官廳ニ於テ其ノ認可ヲ受ク
三 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不正ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ
四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ノサルトキ
五 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ
六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ受ケタルトキ又クシテ其ノ閱覧ヲ拒ミタルトキ
七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戾シタルトキ
八 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ受取シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ
十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ

第45條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第46條 第43條ニ掲ケタル罪ハ前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第47條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第48條 本法ニ違反シテ組合カ組合員ノ持分ヲ受取シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ
十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（國務大臣高橋是清君）只今議題トナリ
マシタル兩案ノ中、先以テ輸出組合法案ニ付キマシテ簡單ニ説明ヲ致シマス、近來我國ノ海外貿易ハ御承知ノ如ク輸出入ノ均衡ヲ失ヒマシテ、年々上額ノ輸入超過ヲ繼續致シテ居ル事情デアリマス、此輸入超過ヲ防ギ我國ノ經濟ノ安定ヲ圖ルガ爲ニハ、輸出貿易ノ振興ヲ圖ルコトガ最も急務デアリマス、然ルニ我が輸出貿易ノ現状ヲ觀マスルニ、中小輸出業者ハ多數群立シテ居リマシテ、其間ニ秩序ト連絡ヲ缺イテ居リマス爲ニ、互ニ無益ナル競争ヲ致シマス、互ニ同士打ヲ致シテ居リマス爲ニ、我ガ商人ニ對シテモ又我商品ニ對シテモ、海外ニヤウナ次第デアリマス、又其群立シテ居ル所ノ中小業者ガ、資金モ信用モ薄弱デアリマスルガ爲ニ、進シテ積極的ノ活動ヲ爲スシテ、是等ノ缺陷ヲ除去致シテ、輸出業者ノ力ニ乏シクナンテ居ルノデアリマス、是等ハ我國ノ輸出貿易ノ伸展ヲ妨グル最モ顯著ナル缺陷デアリマス、是等ノ弊風ヲ矯正致シテ、是等ノ缺陷ヲ除去致シテ、輸出業者ノ間ニ秩序ト統制ヲ與ヘマシテ、共存共榮ノ精神ヲ陶冶スルコトハ最モ大切ナル方策ト考ヘルノデアリマス、仍テ新ナ茲ニ輸出業者ノ組合制度ヲ樹立致シマシテ、共同ノ施設ニ依テ舊來ノ弊害ヲ芟除シ、進シテハ販路ノ開拓及擴張ニ當テマシテ、以テ輸出貿易ノ振興ヲ期セシムカ爲ニ、茲ニ此本法令ヲ制定セントスルノデアリマス、又此重要輸出品工業組合法ハ、近來世界各國ノ工業ノ趨勢ト申スノハ、申スマデモナク經營ノ規模ヲ益大ニシマシテ、優良ニシテ整一ナル製品ヲ多量ニ生産シテ、サウシテ世界各國ノ市場ニ各駆セントスルノ有様デアリマス、我國ニ於キマシテモ段々ト工業ハ近時大工業ノ生産組織ニ移リ變りツ、アルノデアリマスケレドモ、其變革ノ行ハル、遅緩デアリマス、緩漫デアリマス、故

二其大部 分ハ依然トシテ舊態ヲ踏踏致シテ
居リマシテ、薄資微力、不完全ノ設備ニ依ツ
テ群小ノ企業者ガ雑然トシテ分立シテ居ル
状態ニアリマス、其間連絡モ統一モナク、
徒ニ不必要ナル眼前ノ競争ヲ專トシテ、製
品ノ整一或ハ其向上ヲ期スルト云フコトハ
無イノデアリマス、隨テ粗製濫造ノ弊ニ陷
リマス、以テ累々一般輸出品工業ニ及ボス
状態ニアリマス、斯ノ如キ状勢ヲ以テ、駭々
トシテ進ミマスル所ノ世界各國トノ海外市場
ニ於テ角逐スルト云フコトハ、思モ寄ラヌコ
トデアリマス、歐洲ノ大戰當時一時異常ノ發
達ヲ遂ゲタル我國ノ輸出品工業モ今日沈衰
致スノ甚シキ有様ニナッテ居ルコトモ、是ハ
當然ノ事デアリマス、凡ソ輸出貿易ノ刷新
振興ハ其生産ノ過程ニ遡リマシテ、輸出品
工業ノ改善發達ヲ期スルコトガ要諦ニアリ
マス、就中我國工業ノ根本的缺陷ト認ムベ
キアノ雖然タル企業組織ヲ整備シテ、各種
ノ工葉ヲシテ各適當ナル企業系體ヲ得セ
シメ、時勢ノ進ニ適應セル組織經營ヲ爲
サシムルト云フコトガ、即チ刻下喫緊ノ要
務デアリマス、仍テ是ガ方策トシテ重要輸
出品工業ニ關シテ新ニ組合制度ヲ樹立シ
テ、工業者ノ覺醒ヲ促シ、其共助共榮ノ精神
ニ依リマシテ、當業者相集テ製品ノ検査
ヲ嚴重ニ行ハシメ、各種ノ共同ノ施設ヲ施
サシテ、組合員ノ事業經營ニ組織ト統制ト
ヲ與ヘマシテ、秩序アル合理的な企業經營ニ
依テ、其製品ノ改良統一ト生產能率ノ増進
ヲ圖リ、粗製濫造ノ弊害ヲ芟除シテ輸出工
業ノ基礎ヲ確立シ、以テ輸出貿易ノ振興ヲ期
センガ爲ニ、茲ニ本案ヲ提出シタルモノデ
ゴザイマス、右兩案ハ恰モ姉妹法ノ如キモ
ノデアリマス、審議ヲ遂ダラレテ速ニ兩案
ニ對シテ協賛アランコトヲ望ム次第アリ
マス(拍手)

法ノ全文ヲ通讀致シテ見マシテモ、又只今高橋農商務大臣ノ提案ノ御説明ヲ伺ヒマシテモ、此法案ノ使命ハ頗ル廣汎デアツテ、又重大デアルノアリマス、然ルニ此組合ヲシテ十分デハナイカト思フノデアリマスルガ、政府ハ本法ガ成立ヲ致シマシタ上ニ於テハ、低利資金ヲ御融通ニナル御考ガアルノデアリマセウカ、又此點ニ付キマシテハ關係ノ大藏省等ニ對シテモ、既ニ御協議ガ纏ニテ居ルノデアリマスカ、此資金關係ニ付資金ヲ融通シテ、此組合ノ事業ヲ獎勵セシムルト云フ御方針デアリマスルナラバ、其程度ハ如何デアリマスカ、此高橋農相並ニ大藏大臣ノ御所信ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

ルト云フ見込ノアル所デハ、現在デハ先ゾ正金銀行、臺灣銀行等、爲替取扱ヲ爲シテ居ル所ノ金主ニ多イノデアリマス、是等ニ向シテ他ノ從来一般ニ取扱タ程度ヨリモ低利ナル融通ヲ爲ス、又期限モ其地方々々ニ依シテ輸入國ノ商習慣等ニ鑑ミ、相當期限ノ所ニ付テモ斟酌スルト、斯ウ云フコトデアリマス、而シテ此點ニ付キマシテハ十分大藏大臣ト協議ヲ遂ゲテ、大藏大臣モ此事ニ付テハ大ニ同意シテ、贊成ヲシテ居ル譯デアリマス、是ダケ御答ヲシテ置キマス（拍手）

スルコトハ出來ナイト信ジテ居リマス、ソレカラ第二ニ御伺致シタインハ、物價ヲ引下グルト云フコトガ輸出貿易振興ノ根本主義場ニ論議セラレタノデアリマスケレドモ、不幸ニシテ私共ハ十分未ダ政府ノ答辯ニ満足シ、且ツ諒解ヲ得ルコトが出來ナイノデアリマス、ソレカラ第三ノ質問事項ハ、我國ノ輸出製品ノ主ナルモノハ御承知ノ如ク生絲ニ製絲、並ニ之ニ依テ造リマス所ノ製品デアリマス、是等ヲ除キマスルト云フト、他ハ小口ノ種々雜多ナ粗製品デアリマス、此粗製品ガ支那、南洋、或ハ印度方面ニ於キマシテ、販路ノ擴張ヲ致シマシタ所ノ理由ヲ研究致シテ見マスルト云フト、全ク是等商品ノ値段カ、外國ノ商品ノ値段ニ比シマシテ非常ニ安カノタ爲デアル、然ルニ内地ノ物價ガ向上致シテ居リマスル結果ト致シマシテ、且下ノ如ク爲替相場ガ暴落トシテ、圓價ガ低落致シテ居ル場合ニ於キマシテモ、今日歐米ノ製品ト競争シ得ル回復ヲ致シテ、圓價ガ向上致シテ、我ガ商品ノ海外ニ對スル所ノ價值ガ上タ場合ニ於キマシテモ、是等ノ點ニ付テ農商務大臣ノ明快ナル御答辯ヲ希望致シマス、ソビカラ第四ノ事項ハ、本組合法ヲバ實施サハ争スルコトガ出來ナイト私ハ固ク信ジテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ付テ農商務大臣ノ御答辯ヲ立ア、居ラレルカドウカト云フ點デアリマス、ソレカラ更ニ御尋致シタイノハ、此輸出ノ大部分ヲ占メテ居リマス所ノ製絲工業デアリマスガ、是等ハ本組合法實施ノ曉ニ於テハ、矢張工業組合ト認ムルカドウカト云フ點デアリマス、ソレカ

ラ最後ニ御等致シタインハ、是ハ此問題ニ
ハ間接ノ問題デアリマスケレドモ、審議上
甚ダ必要デアルカラ御尋致シマス、外デハ
アリマセヌガ、先般兒玉正金銀行ノ頭取ガ
我國ノ輸入ト輸出ノ總額ノ差ハ約二億圓デ
アル、斯様ナコトヲ聲明サレマシタニ對シ、
先般當議場ニ於テ武藤山治若ヨリ大藏大臣
ニ對シテ、此事實ヲ御承認ニナルカ否ヤト
云フ所ノ御尋ノアッタ時ニ、大藏大臣ハソ
レハ兒玉君ノ勝手ノ議論デアッテ、自分ノ
關知スル所デナイト云フ放言ヲ爲スタルノ
デアル、ソレハ兎三角致シマシテ、然ラバ
政府當局ハ平素ノ我國ノ經濟狀態ニ於テ、
一箇年ノ輸入總額ト輸出總額トハドレ程ノ
差違ヲ生ズルト云フ御見込デアルノデアリ
マスカ、又更ニ御尋致シタインハ、若シ國
民ガ總動員ヲ致シテ輸入ノ防遏輸出ノ促進
ニ努メマシタナラバ、如何程ノ程度マデ此
輸入ト輸出ノ差違ヲ接近シ得ルト云フ御見
込デアルカ、此點ニ付テハ特ニ濱口大藏大
臣ノ御答ヲ得タイト思フノデアリマス、此
問題ハ單り海外貿易振興ノ審議上必要デア
ルノミナラズ、金解禁ノ問題ニモ重大ナ
ル影響ガアルノデアリマスカラ、特ニ明
快ナル御答辯ヲ得タイト存ジマス、以上
○議長(柏谷義三君) 高橋農商務大臣

(國務大臣高橋是清君登壇)

○國務大臣(高橋是清君) 只今前田君ノ御
質疑ノ第一ハ、此組合法案ヲ設ケテモ是ガ
貿易刷新ノ根本政策デハナイ、何等根本政
策ニ觸レテ居ラヌ、根本政策ト云ハベ、即チ
物價引下ガ根本政策デアルト云フ御意見、
成程物價ノ安イト云フコトハ確ニ何レノ國
ニシテモ、其國ノ製品ヲ他國ニ輸出スルノ
ニ大ナル便利ヲ與ヘルモノニハ違ヒナイ、
競争スル上ニ於テ——併チガラ我國ノ今日
ノ輸出品ノ狀態ハデス、各方面即ち地方ニ
駐在シテ居ル所ノ領事、商務官、其他貿易上
ノ主ナル商店ナドノ經驗ニ徴シマシテモ、
我國カラ出マス所ノ品物ハ價ノ高イガ爲

〔柏谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代
り著席〕

二輸入地デ排斥スルト云フヨリハ寧ロ粗製
品ガ多イ、品物が揃ハナイ、又値段ガ常ニ
安定シテ居ラヌ、ソレ故ニ商賣ニナラスト
云フ苦情ガ最モ多イノデアリマス、輸出貿
易ヲ盛ニスル政策ノ根本トシテハ、此病ヲ
癒スノガ即チ根本政策ト考ヘルノデアル、
例ヘバ或ル種類ノ織物ノ如キモ、價ニ於テ
限リガアル、一概ニ澤山ノ註文ヲ受ケテモ
モ満足シ、品質ニ付テモ満足シテ、漸ク外
國人ノ嗜好ニ適テ註文ガ殖エテ來マスト、
最初持ヘタ者ハ資力モ少イ、製造ノ能力ガ
限リガアル、出來ナイ、ソレデ物價ガ下ラケレバ
出來ナイ而シテ此仲介タル商人ハ元ノ造
タ者ニハ據レナイカラシテ誰モ構ハヌ、
見本ヲ出シテ之ヲ造ル者ニハ造ラセル、其
間ニ互ニ同士打ノ競争ガ始ムテ、アレハ十圓
デ引受ケルガ私ナラ九圓デ引受ケル、イヤ
私ハ八圓デ引受ケルト云フノデ段々品質ヲ
落シテ、終ニ是ガ海外へ行シテ日本ノ製品
ノ聲價ヲ落ス本ニナル、只今テモ尙ホサウ
云フ譯テ、品物ハ賣レズシテ倉庫ニ溜テ
居ルモノガ澤山アルノデアリマス、ソレ故
ニ物價ノ安イト云フコトハ最モ大切ニ考ヘ
テ居ル、大切ナ事デアリマスケレドモ、今
日輸出貿易ヲ振ヒ興サントスルナラバ、寧
口其根本ト認ムルモノハ品物ヲ大量ニ、整
ニ製出セタル方法、手段、而シテ其價ノ
激變ノ無イヤウニスルト云フコトガ、我國
ノ商品ニ對シ、又商人ニ對シテ海外ノ信用
ヲ博スル所以ナリト考ヘルノデアリマス、
ソレカラ第二ニハ物價ノ引下政策ハドウ云
フ考ヲ持テ居ルカ、此物價論ハ洵ニ年中
絶エナイ論デアリマス、如何ニシテ物價ヲ
引下ゲルカ何カ政府ニ施スベキ特殊ノ政策
ガアルナラバ、ソレハ最妙デアリマス、
ケレドモ如何ナル國ニ於テモ諸物價ノ引下
ヲ政府ノ力デ爲スト云フコトハ殆ド難イ事
デアルカラ、大ニ造リ、需要が増シテ、生
産ガ餘計出來レバ乃チ其物ハ安クナルノデ
アル、近來亞米利加ニ於テモ……

出ス所ノ膨脹ノ割合ト、必要ナル品物ノ每
月產出スル所ノ割合ト、通貨ノ殖エテ行ク
割合ヨリモ、各重要品ノ產出セラル、所ノ
我國カラ出ル物ノ重要ナルモノハ生絲及生絲
カラ成ル所ノ製品デアッテ、他ハ粗製品ダ、ソ
レ故ニ物價ガ下ラケレバ貿易ハ盛ニナラ
ヌ、輸出ハ盛ニナラスト云フ御意見ダケレ
ドモ、前申ス通り必シモ生絲及其製品ノミ
カ、我國ノ輸出貿易品トシテ重要視スベキ
モノト限ラレテ居ラヌ、今日デハ段々綿織
物、サウニアラ物モ、綿絲ノ輸出が減シテ、其織
物ノ輸出ガ漸次殖エテ行クト云フ傾向モ著
シイモノデアル、又「セルロイド」等ノ製品
モ多々アルノデス、何ゾ單リ生絲ノミナラ
ンヤ、無キ原料ハ他國ヨリ之ヲ輸入シ、之
ニ加工シテ我國ノ特長タル所ノ意匠ヲ施シ
テ海外ニ出セバ、織物其他ノ製品ニ於テ望
ガアルモノハマダアルノデアル、是等モ今
ノ品物ヲ造ルヤウニ仕向ケナケレバ輸出貿
易ハ盛ニナラヌノデアル、此組合法ノ精神
ハ其所ニ在ルノデアル、第四ニハ大貿易
者、大資力アル所ノ貿易者モ此組合ニ入
ルノカ、或ル部分ノ取扱ニ付テハ入ル必
要ガアルカラモ知レヌ、併シ察スルニ此大ナ
ル資力ノアル輸出貿易者ガ取次ラスル、其
品物ヲ造ル者ガ此組合ニ入ル、是目的ハ
達スルノデアル、自ラ此組合ニ入ラナクテ
モ宜イ、自ラ造ルト云フナラバ此組合ニ入
ル必要モアリマセウ、或ハ其組合ガ——工
業ノ組合ガナイガ、自分自ラ良イモノヲ選
擇シテ輸出貿易ヲシナケレバナラスト云フ

此點ニ於テハ大ニ注意シテ居ル、銀行カ貸
出ス所ノ膨脹ノ割合ト、必要ナル品物ノ每
月產出スル所ノ割合ト、通貨ノ殖エテ行ク
割合ヨリモ、各重要品ノ產出セラル、所ノ
我國カラ出ル物ノ重要ナルモノハ生絲及生絲
カラ成ル所ノ製品デアッテ、他ハ粗製品ダ、ソ
レ故ニ物價ガ下ラケレバ貿易ハ盛ニナラ
ヌ、輸出ハ盛ニナラスト云フ御意見ダケレ
ドモ、前申ス通り必シモ生絲及其製品ノミ
カ、我國ノ輸出貿易品トシテ重要視スベキ
モノト限ラレテ居ラヌ、今日デハ段々綿織
物、サウニアラ物モ、綿絲ノ輸出が減シテ、其織
物ノ輸出ガ漸次殖エテ行クト云フ傾向モ著
シイモノデアル、又「セルロイド」等ノ製品
モ多々アルノデス、何ゾ單リ生絲ノミナラ
ンヤ、無キ原料ハ他國ヨリ之ヲ輸入シ、之
ニ加工シテ我國ノ特長タル所ノ意匠ヲ施シ
テ海外ニ出セバ、織物其他ノ製品ニ於テ望
ガアルモノハマダアルノデアル、是等モ今
ノ品物ヲ造ルヤウニ仕向ケナケレバ輸出貿
易ハ盛ニナラヌノデアル、此組合法ノ精神
ハ其所ニ在ルノデアル、第四ニハ大貿易
者、大資力アル所ノ貿易者モ此組合ニ入
ルノカ、或ル部分ノ取扱ニ付テハ入ル必
要ガアルカラモ知レヌ、併シ察スルニ此大ナ
ル資力ノアル輸出貿易者ガ取次ラスル、其
品物ヲ造ル者ガ此組合ニ入ル、是目的ハ
達スルノデアル、自ラ此組合ニ入ラナクテ
モ宜イ、自ラ造ルト云フナラバ此組合ニ入
ル必要モアリマセウ、或ハ其組合ガ——工
業ノ組合ガナイガ、自分自ラ良イモノヲ選
擇シテ輸出貿易ヲシナケレバナラスト云フ

トモアルカモ知レヌ、正金銀行頭取ノ意見ハ相當ニ吾々ハ重ク考ヘテ宜イモノデアル、併ナガラ此頭取ノ意見ハ矢張正金銀行ノ立場ヲ主トシテノ意見デアルカラ、其積リデ吾々ガ讀ンダリ聽イタリスレバ間違ガナイト考ヘマス、隨テ唯正金銀行ノ頭取ノ意見ニ付テ、私ノ意見ヲ述ベタノニアリマス

○副議長（小泉又次郎君） 濱口大藏大臣
〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕
○國務大臣（濱口雄幸君） 前田君ノ御質問ニ仰答致シマスガ、貿易ノ入超額ニ付テ正金銀行頭取ノ見込ニ對スル政府ノ觀察ハ、只今農商務大臣ノ御述ニナツア通リデアリマス、然ラバ政府へ我國ノ輸入貿易ガ凡ソドレ位デアルカ、輸出貿易ガ果シテドレ位デアルカ、差引入超額ハドレ位ニナルノデアラウト云フ見込ヲ持テ居ルカト云フ御質問ニ對シマシテハ、是ハ遺憾ナガラ責任ヲ以テ御答スルコトガ出來ナインデアリマス、織ニ年ガ明ケマシテ二月ノ上旬ノ今日ニ於テ、今年ノ貿易ガ如何様ニ相成ルカト云フコトハ、是ハ政府下致シマシテハ到底責任上何トモ申上ダルコトノ出來ナイ點デアリマス、固ヨリ大藏省ニ於キマシテモ種々ノ調査研究ヲ致シテ居リマスケレドモ、是ハ内部ノ見積マリマシテ議會ニ於テ言ハドレ位ニ減ズルデアラウカト云フ御質問デアリマシタガ、是ハ努力ノ程度如何ニ依リマスカラ、抽象的ニ申上ダルコトハ困難シテ大ニ努力ヲスルナラバ、我國ノ入超額ハドレ位ニ減ズルデアラウカト云フ御質問デアリマシタガ、是ハ努力ノ程度如何ニ依リマスカラ、抽象的ニ申上ダルコトハ困難デアリマス、若シ我が國民ノ今日ノ經濟上ノ難局ニ對スル自覺ガ甚ダ不十分デアリマス、隨テ輸入抑制、輸出ノ獎勵ニ對スル所ノ努力ガ足リマセヌトキニハ、入超額ヲ大ニ減ズルコトハ困難デアラウト思ヒマス、其反對ニ國民ガ大ニ消費ヲ節約シ、勤儉力行ニ勤ミ、サウシテ輸入ノ抑制ニ努メ、又資本ノ蓄積ヲ行ヒ、事業ノ合同ヲ行ヒ、能率ノ増進、大量生産ノ發達ヲ圖リマシテ、大ニ輸出ノ獎勵ニ努力スル上云フコトデアリマシタ

○前田房之助君 只今農商務大臣ハ物價ノ問題モ必要デハアルガ、粗製濫造、此弊ヲ矯メテ製品ヲ改善スルト云フコトガヨリ以上必要デアル、斯ウ申サレタノデアリマスガ、私ハ粗製濫造ノ弊ヲ矯メルコトハ無論必要デアリマスガ、矢張ドウシテモ割安ノ品物ヲ送ラナケレバ、殊ニ日本ノ輸出商品ノ大部分ハ今申上ダタ如ク半開國ニ多く出テ居ルノデアリマス、ドウシテモ値段ガ歐米品ヨリ安くナケレバ競争ニ打勝ツコトガ出来ナインデアリマス、デアリマスカラ

ドウシテモ割安ニスルト云フコトノ必要ヲ感ズルノデアリマスガ、併ナガラ此點ニ付テハ高橋農商務大臣モ否認ハナスツテ居ラヌヤウデアリマス、唯、物價問題ニ付テ是ハ官民一致シテ其局ニ當ラナケレバ、ドウシテモ物價ノ調節ハ出來ヌト云フ御答辯デアッタノデアリマス、是ハ勿論一面ノ眞理デハアリマセウケレドモ、現在我國ノ物價ガ歐米諸國ニ取残サレテ、單リ騰貴ニ騰貴ヲ重ネテ居ル所ノ根本原因ハ何處ニ在ルカト研究致シマスルト、全く實際ノ力以上ニ通貨ガ膨脹シテ、サウシテ、又正貨モ膨脹シテ、其上ニ信用モ膨脹シテ居ル上云フコトハアリマセウケレドモ、現在我國ノ物價ガ重キヲ置カレル、私モ物價ノ安イコトヲ望ムモ我國輸出貿易ノ不振ハ價ヲ高イカラ價ニ重キヲ置カレル、私モ物價ノ安イコトヲ望ムノハ御同感デアリマスガ、茲ハ意見ノ相違ニナルカモ知レヌ、延イテ此金ノ解禁問題輸出禁止ヲ解カウト云フ、之サヘ解ケバ物價引下ダノ根本政策ナリト言ハレル、驚人タ御考ヘ、先づ第一好イ例ハ瑞西ノ金解禁後ノ狀況ガ一番好イデス、彼處モ御承知ノ通リ大戰爭ノ爲ニ一時外國カラ金ガ入ダテ來タ、彼處ハ中立國デアル、交戰國ハ其國ノ通貨ノ價ガ、貨幣ノ價ガ、如何ニナルカ分ラヌ、先づ彼處ヘ持テ行カウトテ置ケバ安心ダ

ト云フノデ、交戰國ノ金ノアル人達ハ早くソレヲ爲替ニ組ンデ、瑞西ニ行カレテ銀行ニ預ケルト云フヤウナ譯、而シテ瑞西ニ段々金ガサウ云フ風デ入テ來ル、貿易ノ力デス、英蘭銀行ハ戰爭中ハ政府紙幣ノ爲ニ資本ノ生ミ出ス所ノ金ハ、悉ク是ハ本國ノ通貨ノ價ヲ落シテ居タガ、英蘭銀行ハ依然トシテ矢張兌換制度ヲ維持シテ居ルノデアノ關係ニハ有力ナルモノデアル、ソレデモ先づ彼處ヘ持テ行カウトテ置ケバ安心ダ

トモアルカモ知レヌ、正金銀行頭取ノ意見ハ相當ニ吾々ハ重ク考ヘテ宜イモノデアル、併ナガラ此頭取ノ意見ハ矢張正金銀行ノ立場ヲ主トシテノ意見デアルカラ、其積リデ吾々ガ讀ンダリ聽イタリスレバ間違ガナイト考ヘマス、隨テ唯正金銀行ノ頭取ノ意見ニ付テ、私ノ意見ヲ述ベタノニアリマス

○前田房之助君 只今農商務大臣ハ物價ノ問題モ必要デハアルガ、ソレニハ屢々當議場ニ於テ論議サレテ居ル

所ノ金解禁ヲ——金ノ輸出禁止ヲ解除ス

ルト云フコトガ、即チ物價引下ダノ根本政

策デアラウト私ハ考ヘテ居リマス、之ニ付

テ重ネテ高橋農商務大臣ノ御答辯ヲ願ヒマスルト共ニ、此金ノ解禁問題ハ今ヤ我國朝野ノ大問題デアリマス、世論ノ蠶々トシテ

其歸スル所ガナイノデアリマス、曾テ彼ノ

英國ノ前々首相「ボルドウキン」氏ハ時ノ關稅改正案ニ向テ議會ヲ解散致シタノデア

リマス、其當時ノ關稅改正ノ案ガ出タ英國

ト經濟狀態ヲ比較致シマシテ、我國ノ今ノ

金ノ輸出禁止ヲ解除スルヤ否ヤト云フ問題

ハ、ヨリ以上ニ重大ナル問題デアラウト私

ハ考ヘテ居リマス、ソコデ此問題ガ國論ノ

歸趨が明瞭デアリマスル以上ハ、此重大ナ

ル問題ニ對シテ政府ニ解散シテ、サ

ウシテ國論ノ嚮フ所ヲ見ラル、必要ガア

ルカドウカスル勇氣ガアルカドウカスウ云

フ點ニ付テ總理大臣ノ御答辯ヲ煩シタイノ

デアリマスガ、總理大臣ハ居ラレマセヌカ

ラ、代々高橋農商務大臣ナリ、濱口大藏

大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シマス

○國務大臣（高橋是清君登壇）

○國務大臣（高橋是清君） 前田君ハ何所迄

モ我國輸出貿易ノ不振ハ價ヲ高イカラ價ニ

重キヲ置カレル、私モ價ノ安イコトヲ望ム

デアリマスガ、總理大臣ハ居ラレマセヌカ

ラ、代々高橋農商務大臣ナリ、濱口大藏

大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シマス

○國務大臣（高橋是清君）

前田君ハ何所迄

モ我國輸出貿易ノ不振ハ價ヲ高イカラ價ニ

重キヲ置カレル、私モ價ノ安イコトヲ望ム

デアリマスガ、茲ハ意見ノ相違ニナルカモ知レヌ、延イテ此金ノ解禁問題

輸出禁止ヲ解カウト云フ、之サヘ解ケバ物

價引下ダノ根本政策ナリト言ハレル、驚人

タ御考ヘ、先づ第一好イ例ハ瑞西ノ金解禁

後ノ狀況ガ一番好イデス、彼處モ御承知ノ通

リ大戰爭ノ爲ニ一時外國カラ金ガ入ダテ來

タ、彼處ハ中立國デアル、交戰國ハ其國ノ

通貨ノ價ガ、貨幣ノ價ガ、如何ニナルカ分

ラヌ、先づ彼處ヘ持テ行カウトテ置ケバ安心ダ

ト云フノデ、交戰國ノ金ノアル人達ハ早く

ソレヲ爲替ニ組ンデ、瑞西ニ行カレテ銀行ニ

預ケルト云フヤウナ譯、而シテ瑞西ニ段々

金ガサウ云フ風デ入テ來ル、貿易ノ力デ

ス、英蘭銀行ハ戰爭中ハ政府紙幣ノ爲ニ

資本ノ生ミ出ス所ノ金ハ、悉ク是ハ本國ノ

通貨ノ價ヲ落シテ居タガ、英蘭銀行ハ依然

トシテ矢張兌換制度ヲ維持シテ居ルノデア

ノ關係ニハ有力ナルモノデアル、ソレデモ

先達テ最近ノ報告ヲ見マスルト十三億以上

ノ金ガ有ツタノガ、今日ハ三億臺ニナツテ、

若シ此儘葉テ、置イタナラバ或ハ國內不換

紙幣ニナリハセヌカト言クテ居ルサウデア

リマス、是ハ小サナ國ノ例、英國ハドウデ

アルカ、今年一杯デ金ノ輸出ヲ解禁スルト

シテハ、遺憾ナガラ明確ナル答辯ヲ致スコ

トハ甚ダ困難デアリマス（拍手）

〔前田房之助君登壇〕

○前田房之助君 只今農商務大臣ハ物價ノ問題モ必要デハアルガ、粗製濫造、此弊ヲ改善スルト云フコトガヨリ以

上必要デアル、斯ウ申サレタノデアリマスガ、私ハ粗製濫造ノ弊ヲ矯メルコトハ無論

必要デアリマスガ、矢張ドウシテモ割安ノ

品物ヲ送ラナケレバ、殊ニ日本ノ輸出商品

ノ大部分ハ今申上ダタ如ク半開國ニ多く出

テ居ルノデアリマス、ソコデ此問題ガ國論ノ

歸趨が明瞭デアリマスル以上ハ、此重大ナ

ル問題ニ對シテ政府ニ解散致シテ、サ

ウシテ國論ノ嚮フ所ヲ見ラル、必要ガア

ルカドウカスル勇氣ガアルカドウカスウ云

フ點ニ付テ總理大臣ノ御答辯ヲ煩シタイノ

デアリマスガ、總理大臣ハ居ラレマセヌカ

ラ、代々高橋農商務大臣ナリ、濱口大藏

大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シマス

○國務大臣（高橋是清君登壇）

前田君ハ何所迄

モ我國輸出貿易ノ不振ハ價ヲ高イカラ價ニ

重キヲ置カレル、私モ價ノ安イコトヲ望ム

デアリマスガ、茲ハ意見ノ相違ニナルカモ知レヌ、延イテ此金ノ解禁問題

輸出禁止ヲ解カウト云フ、之サヘ解ケバ物

價引下ダノ根本政策ナリト言ハレル、驚人

タ御考ヘ、先づ第一好イ例ハ瑞西ノ金解禁

後ノ狀況ガ一番好イデス、彼處モ御承知ノ通

リ大戰爭ノ爲ニ一時外國カラ金ガ入ダテ來

タ、彼處ハ中立國デアル、交戰國ハ其國ノ

通貨ノ價ガ、貨幣ノ價ガ、如何ニナルカ分

ラヌ、先づ彼處ヘ持テ行カウトテ置ケバ安心ダ

ト云フノデ、交戰國ノ金ノアル人達ハ早く

ソレヲ爲替ニ組ンデ、瑞西ニ行カレテ銀行ニ

預ケルト云フヤウナ譯、而シテ瑞西ニ段々

金ガサウ云フ風デ入テ來ル、貿易ノ力デ

ス、英蘭銀行ハ戰爭中ハ政府紙幣ノ爲ニ

資本ノ生ミ出ス所ノ金ハ、悉ク是ハ本國ノ

通貨ノ價ヲ落シテ居タガ、英蘭銀行ハ依然

トシテ矢張兌換制度ヲ維持シテ居ルノデア

ル、貿易モ段々恢復シテ來タカラシテ、今

年一杯ノ期限ヲ以テ金ノ輸出ヲ解禁シヤウ

ト云フ、是ハ上下ノ望ミテアル、資本家モ

ノ關係ニハ有力ナルモノデアル、ソレデモ

アリマス、是ハ世界ノ到ル所ニ資本ヲ放資シ

テ、貿易以外ノ資本ノ生ズル利益、海運事

業ニ依テ得ル所ノ利益ガアル國デスラ、

米利加ノ中央銀行ノ總裁其他金融界ノ巨頭
取カ——總裁ガ亞米利加ニ行^テカラニ、亞
米利加ノ中央銀行ノ總裁其他金融界ノ巨頭
ト相談ヲシテ、諒解ヲ得タカ得ナイカハ私
ハハツキリト其眞相ハ分ラヌケレドモ、其
事實ハ確ニアルノデアル、併シ今日尙ホ以
テ決断ガ出來ナイ、惧レル所ハ何カ解禁ヲシ
一旦ヤツテ、外ヘ金ガ出テ内ノ金ガ減^テ時
分ニドウスルカ、耐ヘルカ耐ヘナイカ、サ
ウ云フ時ニナツタラドウスルカ、此心配ガ
マダ去ラナイ、殊ニ一旦其金ノ解禁ヲシ
マスト、唯其國ト關係國トノ間ノ貿易關
係ノミヂヤナイ、御承知ノ通り此世界各
國ノ間ニ、爲替相場ノ上ニ於テ相場ヲスル
者ガ澤山アル、日本デモ既ニアル、殊ニ外
國銀行ガ日本ナドデ、或ル外國銀行ハ——
最モ此爲替ノ上ニ於テ動亂ヲ來タスノハ其
外國銀行ノ働キデアル、是ハ歐羅巴ニ於テ
モ其通り、先達テ佛蘭西ガエライ目ニ遭^テ
タノモ此銀行ノ響キデアル、世界中爲替相
場ノ上ニ於テ相場ヲシテ居ル、此爲替相場
ノ働ニ依テ實際ノ貿易以外ニ金ヲ取出サ
レルコトモアリ得ルコトデアル、金ノ解禁
ニ付テハ獨リ貿易ノ趨勢バカリ見テ定メル
譯ニハ行カナイ、之ヲ以テ物價引下グノ根
本政策ナリト考ヘルノハ以テノ外ダト私ハ
考ヘル、先達テカラシテ大藏大臣ガ金ノ解
禁ハ今其時機ニアラズト言ハレテ居ルガ、
世間何ト言ハウト之ヲヤツラ國ガ止ビル、
大藏大臣ノ言ハレタ事ニハ何人モ同意ヲ表
シテ居ル、是ダケ御答ヲシテ置キマス(拍
手)○副議長(小泉又次郎君) 吉植庄一郎君
○吉植庄一郎君(吉植庄一郎君登壇)
○吉植庄一郎君 只今議題ニナツテ居ル所ノ
問題ニ付テ主トシテ大藏大臣ニ伺ヒタイ、高
橋農商務大臣ノ物價問題、金解禁等ノ問題
モ序ナガラ拜聴ラスル機會ヲ得タコトハ甚
ダ欣幸ト致シマス、併シ色ニノ質問應答ヲ
爲ノ力ヲ之ニ加ヘナケレバナラスト云フコ
トヲ看取セラレテ居ルト云フ一點ニ付テ

ハ、敬意ヲ拂フ者アリマス、同時にナ長イ御説明ガアツタガ、農商務大臣モ物價方ガ輸出ニハ便利デアル、ノミナラズ出来ルダケ安クシナケレバナラスト云點ニ付テハ御異論ハナカラウ、是ニ於テ現内閣ガ施政ノ方針トシテ總理ガ御演説ニナリ、大藏大臣ガモ一向差支ナイト云ト御論デアレバ、是又全ク根本ノ意見ノ相違デアリマスカ、サウデハナカラウ、是ニ於テ現内閣ガ施政ノ方針トシテ總理ガ御演説ニナリ、大藏省ノ方針ノ御演説中ニモ現在ノ物價騰貴、之ニ對スル現内閣ノ物價政策ナルモノヲ國民ガ明瞭ニ意識スルコトガ出來ナリノデアル、一方ニ於テ過般米及穀ノ關稅ヲ全農村ニ課スルニ於テハ、寧口關稅ノ從量稅ヲ從價稅ニ引直シシテ貰ハナケレバ農村ノ荒廢救フヘカラズトシテ、帝國農會初メ全國ノ農村ハ之ヲ絶叫シテ居ルノデアル、小麥粉ノ輸入稅モ尙ホ之ヲ引上げナケレバナラスト云フ要求ヲシテ居ル場合ニ於テ、現内閣ハ突如トシテ過般米穀ノ關稅ヲ免除スル、而シテ昨年度ニ於ケル米ノ不足ヲ外米輸入ニ依テ填補スル政策ヲ御執ニナッタノデアル、吾々ハ此問題ニ付テ今可否ヲ論ズルノデハナイ、現内閣ハ少クモ國民生活ノ脅威ハ物價騰貴ニ因ル、殊ニ食糧品ノ騰貴ハ國民ノ生活ヲ脅威スルト云フ見地ニ立テ、此舉ヲ斷行シタモノニアラウト思フ、然ラバ現内閣ノ物價問題ニ對シテ考ヘテ居ルト云フコトダケハ、是デ分ル、併シ四百五十万石内外ノ米ノ輸入關稅ダケヲ以テ、物價騰貴ノ全部ニハ影響ヲ及ボサナイノデアル、輸入ハ昨年度ニ於テ二十四億六千万圓ノ輸入デアル、是ガ大正十二年九月大震災以前ノ物價対照ヲ致シテ見レバ、既ニ月ノ調査基礎トシテ一割二分デアルト仰レテ居タガ、吾々ノ調査スル所ニ依レアリマス、過般大藏大臣ハ、大正十二年十二月ノ調査基礎トシテ一割二分デアルト仰レテ居タガ、吾々ノ調査スル所ニ依レバ、九月ト十二月ノ三箇月間ノ差ガアリマ

スガ、吾々ハ大正十二年大震火災ノ以前、
状態ト比較シテ見ルコトガ一番正シキ標準
デアルト思フ、此標準ニ依レバ、物價ハ平
均ニ約二割ノ増加ヲ致シテ居ルト云フコト
ハ、吾々ハ確乎タル材料ニ依リテ断言スル
ヲ憚ラヌノデアル、此趨勢ハ獨リ輸入品ニ
於テ物價ノ騰貴ヲ來シタノミナラズ、今ヤ
輸出品ニ於テモ約一割七分ノ物價ノ騰貴ヲ致
シテ居リマス、是モ吾々ハ相當確乎タル材
料ニ依ラテ斷言スルノデアリマス、一般ノ物
價ノ騰貴ガ二割以上ニ及ビ、輸出品モ亦輸
入品ノ物價騰貴ノ影響ヲ受ケテ、我が國内
ニ於ケル外國輸出品ハ一割七分ノ騰貴ヲ爲
シ、尙ホ漸次騰貴ノ状勢ニ在ルノデアリマ
ス、此時ニ於テ農商務省所管ニ於テ、米麥
ノ——全國ノ農村ノ輿論ニ反スルモ尙ホ物
價騰貴ヲ抑制シナケレバナラヌト云フ意味
ニ於テ——之ヲ解放シ、關稅ヲ一時停止ス
ルト云フコトニ爲サテ居リナガラ、帝國政
府ノ財政經濟ノ中心タル大藏省ニ於テハ、
如何ナル物價下落ノ施設ヲ爲サレテ居ルノ
デアルカ、吾々不幸ニシテ今日ニ至ルマ
デ、濱口君ガ行政財政ノ整理ニ依ラテ政府
ノ消費節約ヲ爲シ、國民ニ向シテ勤儉貯蓄
ヲ勧ムルト云フ、此間接射擊ヲ唯一ノ材料
トシテ居ル以外ニ於テ、現内閣ガ何等ノ物
價政策ヲ持シテ居ルト云フコトヲ見出サヌ
ノデアリマス、故ニ過般此壇上ニ於テ武藤
山治君ハ、濱口君ノ御論ハ恰モ大病人ニ向
テ衛生ノ講義ヲシテ居ルヤウナモノノデアル
ト言ハレタ、洵ニ通諭ナリト私共ハ傾聽致
シタノデアリマス、今日ノ物價ガ段々騰貴
ヲシテ國民ノ生活ヲ脅威シ、更ニ輸出品ニ
ノコトニ於テ多少、輸出獎勵ノ便宜ヲ開イ
バ、内閣全體ガ同ジ方針ヲ以テ各方面トモ
活動ヲシナケレバナラス筈デアル、農商務
省ニ於テ一部ノ輸出組合法案ヲ拵ヘ、其他
ノ外國カラ輸入品ガ這入ルトハ言ハナイガ、
世界各國ヲ通ジテ輸出入品ハ物價ノ安イ處
ニナツテ居ルナラバ、勿論高イカラノミデ

ベカラザル原則デアリマス、此原則ハ少クトモ除外スルコトハ出来ナイモノデアル、故ニ是ト同ジ方針ヲ以テ大藏大臣モ勵能ハザルコトヲ懸念シマシテ、屢々警告シタノデアリマスガ、只今モ多年金解禁ノ問題策ガ常ニ支離矛盾シテ、一定ノ政策ヲ行フト、只今此所ニ承々タ所ノ農商務大臣ノ説ハ、多年朝ト野ニ在テ相鬭タ所ノ問題デアツテ兩極端ノ説デアル、物價問題ニ付テモノ通貨縮小ヲ以テ唯一ノ物價低落ノ原因トシテ、通貨ノ縮少、兌換ノ縮少ニ向テ極力奮闘セラレタル濱口大藏大臣ト、當時ノ高橋大藏大臣ハ、物價ト云フモノハ左様ナ譯ノモノデハナイト云フ高橋一派ノ物價論デ常ニ抗争シテ居タ、此人々が同ジ内閣ノ内ニ居テ物價政策ヲ論ジ、金輸出解禁ノ問題ヲ協定スルニ當テハ、誰カガ降参シナケレバナラヌト云フコトハ明デアル、此内閣ハ物價問題ニ對シテ、所謂曾テハ放漫政策ノ執行者ト濱口君ガ罵タ人ト、物價調節ハ敢テ心配ハシナクモ宜イト云フ人ト、是非物價調節ハシナケレバナラス、而シテ通貨縮小ヲシナケレバナラス、金ノ解禁ヲシナケレバナラヌト論ジタ人トガ廟堂ノ内ニ同ジク立ツテ、此兼合ヒヲ如何ニ取テ往々カ、是ガ物價政策ニナツテ現レルノニ、現内閣ハ外ノ問題ニ付テハ高調力説セラルルケレドモ、物價問題ニ至テハ僅ニ行政財政ノ整理ト國民ノ消費節約ニ訴ヘ、單ニ聲ヲ大ニシテ國民ガ自覺セヨトノミ言ハレルガ、政府ハ國民ニ自覺ヲ促ス前ニ、政府自ラ自覺ヲシナケレバナラヌ、政府自ラ物價整理ト國民ノ消費節約ニ訴ヘ、單ニ聲ヲナルハシト思フ、此問題ヲ御出シナツテ、大藏大臣ハ之ニ對應スベク、此物價ヲ如何ニ向テ何等ノ對策ヲ講ジナイト云フコトニ調節セラレントスルノデアルカ、過般來度々繰返ヘサレタル政府ノ行政財政整理

ト、國民ニ對シテ消費節約ヲ強ユル以外ニ何等ノ對策ヲ持タナイノニアリマスカ、持タナイト云フナラバハキリ現内閣ハ其以外ニ物價政策ナシト御明言ナサルガ宜イ、アルト云フナラバ如何ナル對策ヲ持テ居ラル、カ、唯ニ組合法ヲ施行ヘレト云フコトデナク、政府自ラ當然爲スペキ物價政策ヲ爲サナケレバナラヌ責務ガアル、此點ニ付テ現内閣ハ成算アルカ否ヤ、此問題ニ付テ大藏大臣ガ國民ヲシテ安心ノ出來ルヤウニ、政府ノ物價政策が何所ニ在ルノデアルカ、物價ハ漸騰シツ、アルノデアル、輸入品ノ二十四億ニ對シテ二割三分ハ過日モ申ス通り五億五千万圓デアル、國民ガ一年間ニ於テ五億五千万圓、一人十圓ニ近キ增加稅ヲ現内閣ノ失政ノ爲ニ謀セラレテ居ル、是ハ多年負擔ノ輕減ヲ唱へ來タ所ノ現内閣諸公ハ、斯様ナル輸入超過ダケノ關係カラシテモ五億五千万圓昨年ニ於テ增加シテ居ル、本年度ニ於テモハソレト同様、若クハソレニ近イモノヲ負擔セシメナケレバナラスト云フ場合ニ於テ、平然トシテ單ニ行政整理ト國民ノ消費節約ニ依テ之ヲ望ムト云フコトハ、如何ニモ自分ノ無能、無經綸ヲ示シテ、其責任ヲ盡サムルモノノデアルト吾々ハ思フ、此點ニ付テ特に大藏大臣ハ現内閣ノ物價政策ニ對シテ具體的ノ御意見ヲ示サレンコトヲ望ムノデアリマス。

(國務大臣濱口雄幸君登壇)

○國務大臣(濱口雄幸君) 只今吉植君ヨリ現内閣ノ物價政策ハ如何デアルカト云フ御質問ガアリマシタ、ソレニ關聯ヲ致シテ私ガ在野ノ時ニ唱へ來タ所ノ物價並ニ金融ニ關スル所ノ議論ニ論及ヲサレテ、此度政府ガ行々所ノ、行政財政ノ整理、並ニ消費節約ノ獎勵ヲ以テ間接的ナリトシテ、其效果ヲ殆ド否認サル、ガ如キ口吻ヲ漏シ、而シテ此物價問題ヲ徹底的ニ解決スルニハ、恰モ金ノ輸出解禁ノ外ニ途ハナイト云フ御考ヲ以テ御質問ニナタヤウニ承知ヲ致シタノデアリマス、之ニ就テ私ハ御答ヲ致サウト思ヒマス、凡ソ經財上ノ政策、例ヘバ通貨ニ對スル政策ニシマシテモ、物價ニ對

スル政策ニ致シマシテモ、財政經濟上總行カナケレバナラヌコトハ申スマデモアリトテナク、政府ナシト御明言ナサルガ宜イ、アルト云フナラバ如何ナル對策ヲ持テ居ラル、カ、唯ニ組合法ヲ持ヘレト云フコトデナク、政府自ラ當然爲スペキ物價政策ヲ爲サナケレバナラヌ責務ガアル、此點ニ付テ現内閣ハ成算アルカ否ヤ、此問題ニ付テ大藏大臣ガ國民ヲシテ安心ノ出來ルヤウニ、政府ノ物價政策が何所ニ在ルノデアルカ、物價ハ漸騰シツ、アルノデアル、輸入品ノ二十四億ニ對シテ二割三分ハ過日モ申ス通り五億五千万圓デアル、國民ガ一年間ニ於テ五億五千万圓、一人十圓ニ近キ增加稅ヲ現内閣ノ失政ノ爲ニ謀セラレテ居ル、是ハ多年負擔ノ輕減ヲ唱へ來タ所ノ現内閣諸公ハ、斯様ナル輸入超過ダケノ關係カラシテモ五億五千万圓昨年ニ於テ增加シテ居ル、本年度ニ於テモハソレト同様、若クハソレニ近イモノヲ負担セシメナケレバナラスト云フ場合ニ於テ、平然トシテ單ニ行政整理ト國民ノ消費節約ニ依テ之ヲ望ムト云フコトハ、如何ニモ自分ノ無能、無經綸ヲ示シテ、其責任ヲ盡サムルモノノデアルト吾々ハ思フ、此點ニ付テ特に大藏大臣ハ現内閣ノ物價政策ニ對シテ具體的ノ御意見ヲ示サレンコトヲ望ムノデアリマス。

○副議長(小泉又次郎君) 静肅ニ願ヒマス

○國務大臣(濱口雄幸君)(續) 斯ノ如キ見地ニ基イテ、此内閣ハ行政財政ノ整理緊縮ヲ行ヒ、併セテ廣ク國民全體ニ向テ消費ノ節約ヲ獎勵宣傳ヲ致シテ居ル所デアリマス、之ヲ以テ物價調節ノ第一義ナリト考へス、之ヲ以テ物價調節ノ第一義ナリト考へテ居ル所デアリマス(拍手)殊ニ此兩組合ノ成立ヲ致シマシタ後ニ於テハ、日本銀行ヨリ先刻農商務大臣ガ説明ヲ致サレタ通り、相當低利ノ爲替資金ヲ供給スルト云フ方策ハ今日研究ヲ致シ、凡ソ其議が熟シテ居ル際デアリマス、或ハ大藏省ノ政策デアルト云フ如キ各別ノ政策ハアリマセヌ、總テ是レ政府ノ政策デアリマス(拍手)殊ニ此兩組合ノ金利問題ノ如キ、又此手形ノ期限ノ問題ノ如キ出來得ルダケ之ニ對シテ金融上ニ便宜ヲ圖ルト云フコトハ、今日研究ヲ致シ將ニ實行セントシテ居ル事柄デアリマス、又現内閣ハ御承知ノ通り、爲替ノ安定維持ヲ圖ルガ爲ニ、必要ナル場合ニ於テハ内外ニ保有スル所ノ正貨ヲ利用スルコトヲ辭セナイト云フコトヲ既ニ聲明ヲ致シテ居リマス、其在外正貨ニ屬スルモノハ既ニ約一千萬圓近ク拂下ダテ實行シテ居ル、今後必要場合ニ於テハ在外正貨ヲ減少スルト云フコトハ決シテ躋踏スルモノデハナイ、斯ノ如ク内外ニ持ツテ居ル所ノ正貨ヲ拂下ダ、或ハ之ヲ減少スル場合ニ於テハ、其直接ノ目的ハ爲替ノ調節ニ在ルコトハ勿論デアリマスケレドモ、其間接ノ效果卜致シマシテ、自ラ多少ノ通貨ノ收縮ヲ招キ、ソレニ

依テ通貨政策ノ上カラ物價ノ調節ヲ期スルコトガ出來ルデアラウト云フコトヲ、政府ハ期待シテ居ルモノデアリマス、(拍手)其他政府ノ物價政策ハ決シテニシテ足ルモノデハナイ、既ニ之ヲ行タカラ他ハ行ハヌデモ宜シトイト云フモノデハアリマセス、總デ常ニ調査研究ノ上デ、成案ヲ得ルニ從フテ順次ニ之ヲ實行スルコトハ辭セナイト云フコトハ屢々、聲明シテ居ル通りアリマス、尙ホ今後ニ於テモ是マデノ方針ノ通り、其案ノ出來次第之ヲ實行スル考デアリマス、唯、一言申シテ置キタイコトハ、吉植君ノ御質問ノ趣旨ハ明ニ金解禁ノ外ニハ物價調節策無シト考ヘテ居ラレルノデアリマセウ、サウ云フ御考ヲ以テ御質問ニナツテ居ルモノト私ハ信ズル(「違ヒマス」ト呼フ者アリ)此問題ニ付テハ農商務大臣ガ説明セラレタ通りデアリマシテ、單ニ物價調節ノ見地ノミカラ言ヒマスレバ金ノ解禁問題、之ヲ實行致シマスレバ相當ノ效果ガアルデアラウト思ヒマス、併ニガラ前回ニモ或る機會ニ於テ申上ダマシタ通り、總テノ問題ヲ物價問題ノ見地ノミカラ判断スル譯ニハ參リマセヌ、物價問題ハ勿論國民生活ノ重大十問題デアリマス、貿易上ノ重大十問題デアリマスガ、其重大ナリマセウ、サウ云フ御考ヲ以テ御質問ニナツテ居ルト云フコトハ、是ハ争フベカラザル事實デアリマス(拍手)或ル機会ニモ申上ダマシタ如クニ、日本ノ商品、殊ニ織製品ガ印度ヲ越エ、紅海ヲ越エ、地中海ニ出テ、巴爾幹半島ニマデ盛ニ販路ヲ擴張シテ居ルト云フコトハ、是ハ爲替低落ノ結果デアリマス、私ハソレ故ニ爲替ノ低落ガ宜シトイタハ決シテ申シマセヌ、是ハ憂フベキ事柄デアルガ、幸カ不幸カ其結果ハ自ラ輸出ノ獎勵ニナツテ居ルト云フ、其事實ダケヲ申スノ禁ヲ致シマシタコトガ國家經濟全般ニ及ボス影響ト云フモノハ、中ニ物價問題ノ比デハナイト思フノデアリマス、此事ハ屢々申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス(拍手)ノ輪出解禁ヲ致シマスルト、其金ノ輸出解禁ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テサレマシタ爲替ノ低落ノ爲ニ輸入品ハ何割上テ居ル、爲替低落ノ其程度ニ從フテ輸入品ノ價格ハ上テ居ル、爲替ガ二割三分低落ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テ居ルカノ如キ御議論デアリマシタカ、是ハ必シモ左様ニハ参ラスト思ヒマス、例ヘ普通ノ狀態カラ申シマスレバ、爲替ガ二割三分上レバ輸入品ノ價格ハ二割三分上ルベシ計算デハアリマセウケレドモ、是ハ日本内地ニ於ケル所ノ消費ノ狀態ニ依テ爲替ノ關係カラ上テ來ル、其物價ノ證實ガ

其品物ノ製造地、仕出地タル所ノ例ヘハ亞米利加ナラ亞米利加、英國ナラ英國ニ於テ原價ヲ下ダケレバ日本本賣レメト云フ状態ニ陥フタ場合ニ於テハ、外國カラノ輸入品ハ必シモ爲替ノ下落シタ同ノ割合ニ於テ賃貴スルモノデハナイノデアリマス、ソレカラ吉植君ハ輸出品ノ賃貴ノ例ヲ舉ダテレマシテ、輸出ノ品物ハ一割七分ノ賃貴ナツテ居ルモノト私ハ信ズル(「違ヒマス」ト呼フ者アリ)此問題ニ付テハ農商務大臣ガ説明セラレタ通りデアリマシテ、單ニ物價調節ノ見地ノミカラ言ヒマスレバ金ノ解禁問題、之ヲ實行致シマスレバ相當ノ效果ガアルデアラウト思ヒマス、併ニガラ前回ニモ或る機會ニ於テ申上ダマシタ通り、總テノ問題ヲ物價問題ノ見地ノミカラ判断スル譯ニハ參リマセヌ、物價問題ハ勿論國民生活ノ重大十問題デアリマス、貿易上ノ重大十問題デアリマスガ、其重大ナリマセウ、サウ云フ御考ヲ以テ御質問ニナツテ居ルト云フコトハ、是ハ争フベカラザル事實デアリマス(拍手)或ル機会ニモ申上ダマシタ如クニ、日本ノ商品、殊ニ織製品ガ印度ヲ越エ、紅海ヲ越エ、地中海ニ出テ、巴爾幹半島ニマデ盛ニ販路ヲ擴張シテ居ルト云フコトハ、是ハ爲替低落ノ結果デアリマス、私ハソレ故ニ爲替ノ低落ガ宜シトイタハ決シテ申シマセヌ、是ハ憂フベキ事柄デアルガ、幸カ不幸カ其結果ハ自ラ輸出ノ獎勵ニナツテ居ルト云フ、其事實ダケヲ申スノ禁ヲ致シマシタコトガ國家經濟全般ニ及ボス影響ト云フモノハ、中ニ物價問題ノ比デハナイト思フノデアリマス、此事ハ屢々申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス(拍手)ノ輪出解禁ヲ致シマスルト、其金ノ輸出解禁ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テサレマシタ爲替ノ低落ノ爲ニ輸入品ハ何割上テ居ル、爲替低落ノ其程度ニ從フテ輸入品ノ價格ハ上テ居ル、爲替ガ二割三分低落ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テ居ルカノ如キ御議論デアリマシタカ、是ハ必シモ左様ニハ参ラスト思ヒマス、例ヘ普通ノ狀態カラ申シマスレバ、爲替ガ二割三分上レバ輸入品ノ價格ハ二割三分上ルベシ計算デハアリマセウケレドモ、是ハ日本内地ニ於ケル所ノ消費ノ狀態ニ依テ爲替ノ關係カラ上テ來ル、其物價ノ證實ガ

○副議長(小泉又次郎君) 金光庸夫君
〔金光庸夫君登壇〕
○金光庸夫君 輸出組合法案並ニ重要輸出品ノ工業組合法案ハ、爲替對策ノ一部デアルト云フコトヲ御説明ニナリマシタガ、私モ多分其御對策中ノ重要ナル政策デアラウト存ジテ居ルトナラバ、然ルニ先程牧山君ノ御質問ニ對スル農商務大臣ノ御答三依リマスレバ、吾々が豫期シテ居ラ程ノ重要ナル意味ニ非ズシテ、多少ノ效果ハアリ得ルトシテモ、先づ銀行カラ借金ヲ爲スニ便利ダト云フ位ノ程度ニ止マルヤウニ伺ヒマシタノデ、多少失望致シマシタノデ、茲ニ改メテ御質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、此資金ノ融通ガ正金銀行其他ノ營利會社ノ手ヲ經テ貸附ケテ致シマスト云フコトニナリマストドウシテモ其營利ト云フコトガ先ニ立ツノデアリマスカラ、自然警戒其度ヲ過ギテ其效果ガ割合ニ少イノデアリマス、ソコデ私ハ融資ノ點ニ就テ二三伺シテ見タイト思フノ原因ニ逃げテ、其原因ニ向テ斧銭ヲ加フルノ外ニハナインデアル、吾々ノ信ズル所ニ依リマスレバ、近年ニ於ケル物價騰貴ノ原因タル政府ノ財政ニ向テ緊縮ヲ行ヒ、又此騰貴ノ原因タル所ノ國民ノ消費ニ向テ節約ヲ行ハシムルト云フコトガ、即チ根本義デアルト云フコトヲ何所マデモ信ジテ居ルト云フコトヲ此所ニ御答申シテ置キマ

依テ、現内閣ノ物價政策ナルモノハ相變ラズ行政財政ノ整理ト國民ノ勤儉力行ニ俟テアル場合ニハ、組合ハ其全責任ヲ負ハナケレバナラヌ關係上、是亦貸出シニ頗ル脅病ナ場合ガ多イト思フ、金ヲ借り受ケテ當業者ニ貸ストカ、若クハ保證スルトカ、何レニシテモ全責任ヲ負ハネハナラヌノデ、必要ナルカ、ソレカラ吉植君ハ輸出品ノ賃貴恰モ輸出ノ障碍ヲ受ケテ居ルカノ如キ御議論ト承リマシタガ、若シ左様デアリマセウカ、若ナラバ、是ハ失禮ナカラ誤リデアラウト思ヒマス、即チ今日ノ如キ爲替相場ノ低落ト云フコトガ、輸入ニ對シテハ大ナル抑制トナリ、輸出ニ對シテハ大ナル獎勵トナツテ居ルト云フコトハ、是ハ争フベカラザル事實デアリマス(拍手)或ル機会ニモ申上ダマシタ如クニ、日本ノ商品、殊ニ織製品ガ印度ヲ越エ、紅海ヲ越エ、地中海ニ出テ、巴爾幹半島ニマデ盛ニ販路ヲ擴張シテ居ルト云フコトハ、是ハ爲替低落ノ結果デアリマス、私ハソレ故ニ爲替ノ低落ガ宜シトイタハ決シテ申シマセヌ、是ハ憂フベキ事柄デアルガ、幸カ不幸カ其結果ハ自ラ輸出ノ獎勵ニナツテ居ルト云フ、其事實ダケヲ申スノ禁ヲ致シマシタコトガ國家經濟全般ニ及ボス影響ト云フモノハ、中ニ物價問題ノ比デハナイト思フノデアリマス、此事ハ屢々申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス(拍手)ノ輪出解禁ヲ致シマスルト、其金ノ輸出解禁ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テサレマシタ爲替ノ低落ノ爲ニ輸入品ハ何割上テ居ル、爲替低落ノ其程度ニ從フテ輸入品ノ價格ハ上テ居ル、爲替ガ二割三分低落ヲ致セハ輸入品ノ物價ガ二割三分上テ居ルカノ如キ御議論デアリマシタカ、是ハ必シモ左様ニハ参ラスト思ヒマス、例ヘ普通ノ狀態カラ申シマスレバ、爲替ガ二割三分上レバ輸入品ノ價格ハ二割三分上ルベシ計算デハアリマセウケレドモ、是ハ日本内地ニ於ケル所ノ消費ノ狀態ニ依テ爲替ノ關係カラ上テ來ル、其物價ノ證實ガ

ノデハナイ、又日本銀行ノ手ヲ經テ金ヲ貸出シテモ、唯預金部ノ資金ヲ融通シタト云フニ止マテ、何等政府ハ犠牲ヲ提供シタト云コトハナインデアリマスカラ、私ハモウ一步進ンデ犠牲ヲ提供シ、危険ヲ負擔スルト云フ御覺悟ガ願ヒタインデアリマス、此危險ヲ負擔スルト云フ覺悟サヘアレバ、思ヒノ外效果ガアルト思フ、例へバ此前帝國會社ノ場合ノ如キデモ、政府ハ危険ヲ負擔スルト云フ覺悟ヲサレタ、然ルニ其結果一文ノ損害モナク、犠牲モ要セズシテ此覺悟ガアレダケ偉大ノ效果ヲ生シダノデアリマス、併ナガラソレハ時ト場合ニ依テハ政府ノ損害ニナルコトモアリマスガ——ソレカラ又震災直後ニ於テモ所謂震災手形ニ對シテ政府ハ一億圓程度ノ保證ヲシタ、日本銀行ニ對シテ、保證ヲシタ、即チ危險ノ負擔ヲシテ犠牲ヲ御提供シタ意味ニナル、吾々其當時ニ考へテ一億圓ノ危險ノ負擔ト云フコトハ可ナリ大キナ大覺悟アルト思ヒマシタケレドモ、其結果其效果ノ偉大ナリシニ比シ、損害ハ極メテ微々タルモノデアリハセヌカト思フノデアリマス、此危險ヲ負擔スルト云フ覺悟、犠牲ヲ提供スルト云フ決心ガアリサヘスレバ、實際ハ多額ノ負擔ヲ爲サズシテ非常ナ效果ヲ擧ゲ得ルト思フノデアリマス、又米國ノ如キ支那ニ對シテ對支會社法ヲ設ケテ、稅金ノ免除マデモ致シテ對支貿易ヲ獎勵致シテ居リマスコトハ御承知ノ通リ輸出信託局ト云フコトモ戦後ニ彼ノ歐洲大陸ノ經濟界不安ノ際、之ニ物ヲ賣込ムト云コトハ非常ニ危險アルカラト云フノデ、御承知ノ通リ輸出信用局ト云フモノヲ設ケテ、低利且ツ長期ノ資金ヲ貸シテ賣掛危險ノ一部ノ負擔マデシテ歐洲大陸ヘノ輸出ヲ援助シタノデアリマス、其效果ハ非常ナモノニアタト云フコトハ、英國ノ財界が漸次恢復シ、對外爲替ノ如キモ正貨輸送ノ方法ニ依ラズシテ殆ド平價ニ復シ、特ニ金ノ解禁點ニ達セントシテ居ルノヲ見テモ分ル次第デアリマス、所ガ最近ニ至リマシテハ、我ガ對英爲替モ非常ニ低落スルニ件テ、我ガ對英爲替モ非常ニ暴

落シタノデアリマス、其結果東洋方面、殊ニ印度方面ニ對スル輸出が非常ニ盛ニナッテ、印度ニ日本ノ綿絲布其他ノ物ガ續々ト云フ御覺悟ガ願ヒタインデアリマスカラ、斯ノ如ク有ユ獎勵制度ヲ印度ニモ適用スルト云フコトニ最近ナッタデアリマセヌカ、斯ノ如ク有ユル犠牲ヲ提供シ危險ヲ負擔シテ、サウシテ貿易獎勵法ヲ設ケテ居リマス、又支那ニ對シテモ貿易獎勵法ヲ設ケテ居ルコトモ御承知ノ通リデアリマス、斯様ナ有様デアリマスカラ、日本ガ唯組合法ヲ擇ヘテ僅ノ資金ヲ日本銀行ノ手ヲ經テ貸スト云フヤウナ從來ノ「スタンプ」手形ノ焼直シヲ見タヤウソシナマドロコシイコトデハ、逆モ英米ニ对抗スルコトガ出來ヌト思フノデアリマス、其意味ニ於テ特殊ノ機關ヲ設ケテ、政府ハ或ル程度ノ犠牲ヲ提供シ、若クハ危險ヲ負擔スル覺悟ヲ以テ、恰モ震災手形ニ對スルヤウナ態度ヲ御執ニナッテハ如何デアラウカト思フノデアリマス、所ガソレハ震災ハ何百年ニ一度ノ非常ナ悲惨事デアッタカラソレハ別物デナイカ、ソレト同一ニ律セラレルモノナイト云フ御意見モゴザイマセウガ此震災ハ比較的のモノデアリマシタケレドモ、今日ノ爲替ノ對策ト云フモノハソンナ部分的ナモノデハナイ、我國ノ一般經濟界ノ根本ニ關スル大問題デアリマス、ソレガ爲ニ先日來非常ナ論戰ガ行ハレタ次第アリマシテ、諸君モ御承知ノ通りデアリマス、隨テ之ヲ震災ト比較スルナラバ、寧口私ハ震災以上ト見テモ宜シト思フ、今一ツハ之ヲ社會問題ノ方面カラ見テ戴キタイト思フ、ソレハ簡單ニ申上ダマスガ、此輸出ト輸入ノ差ニ依テ起ル所ノ輸入超過ノ六億圓ト云フモノハ、直截簡明ニ申シマスレバ、是ハ勞働ノ輸入デアル、隨テ我ガ勞働界ヲ非常ニ脅威スルモノデアルト云フコトヲ申上ダタ——勞働ヲ商目覽タヤウニ申上ダテハ如何カト存ジマスケレドモ、假ニ勞働ヲ價格ニ換算シテ見

マス——昨年度ニ於テ六億圓ノ輸入カアッタ致シマスレバ、概算此七掛ノ四億二千ナッテ、印度ニ日本ノ綿絲布其他ノ物ガ續々ト云フ御覺悟ガ願ヒタインデアリマスカラ、斯ノ如ク有ユ獎勵制度ヲ印度ニモ適用スルト云フコトニ最近ナッタデアリマセヌカ、斯ノ如ク有ユル犠牲ヲ提供シ危險ヲ負擔シテ、サウシテ貿易獎勵法ヲ設ケテ居リマス、又支那ニ對シテモ貿易獎勵法ヲ設ケテ居ルコトモ御承知ノ通リデアリマス、斯様ナ有様デアリマスカラ、日本ガ唯組合法ヲ擇ヘテ僅ノ資金ヲ日本銀行ノ手ヲ經テ貸スト云フヤウナ從來ノ「スタンプ」手形ノ焼直シヲ見タヤウソシナマドロコシイコトデハ、逆モ英米ニ対抗スルコトガ出來ヌト思フノデアリマス、其意味ニ於テ特殊ノ機關ヲ設ケテ、政府ハ或ル程度ノ犠牲ヲ提供シ、若クハ危險ヲ負擔スル覺悟ヲ以テ、恰モ震災手形ニ對スルヤウナ態度ヲ御執ニナッテハ如何デアラウカト思フノデアリマス、所ガソレハ震災ハ何百年ニ一度ノ非常ナ悲惨事デアッタカラソレハ別物デナイカ、ソレト同一ニ律セラレルモノナイト云フ御意見モゴザイマセウガ此震災ハ比較的のモノデアリマシタケレドモ、今日ノ爲替ノ對策ト云フモノハソンナ部分的ナモノデハナイ、我國ノ一般經濟界ノ根本ニ關スル大問題デアリマス、ソレガ爲ニ先日來非常ナ論戰ガ行ハレタ次第アリマシテ、諸君モ御承知ノ通りデアリマス、隨テ之ヲ震災ト比較スルナラバ、寧口私ハ震災以上ト見テモ宜シト思フ、今一ツハ之ヲ社會問題ノ方面カラ見テ戴キタイト思フ、ソレハ簡單ニ申上ダマスガ、此輸出ト輸入ノ差ニ依テ起ル所ノ輸入超過ノ六億圓ト云フモノハ、直截簡明ニ申シマスレバ、是ハ勞働ノ輸入デアル、隨テ我ガ勞働界ヲ非常ニ脅威スルモノデアルト云フコトヲ申上ダタ——勞働ヲ商目覽タヤウニ申上ダテハ如何カト存ジマスケレドモ、假ニ勞働ヲ價格ニ換算シテ見

（國務大臣高橋是清君登壇）○國務大臣（高橋是清君）金光君ノ御問ハ第一ニハ此組合法ヲ以テ足レリトセズ、尙小之ニ金融機關ヲ添ヘルカ、然ラヂレバ政府ガ低利資金ヲ直接貸スヤウノ方法ガアッタスルヤウナ態度ヲ御執ニナッテハ如何デアラウカト思フノデアリマス、所ガソレハ震災ハ何百年ニ一度ノ非常ナ悲慘事デアッタカラソレハ別物デナイカ、ソレト同一ニ律セラレルモノナイト云フ御意見モゴザイマセウガ此震災ハ比較的のモノデアリマシタケレドモ、今日ノ爲替ノ對策ト云フモノハソンナ部分的ナモノデハナイ、我國ノ一般經濟界ノ根本ニ關スル大問題デアリマス、ソレガ爲ニ先日來非常ナ論戰ガ行ハレタ次第アリマシテ、諸君モ御承知ノ通りデアリマス、隨テ之ヲ震災ト比較スルナラバ、寧口私ハ震災以上ト見テモ宜シト思フ、今一ツハ之ヲ社會問題ノ方面カラ見テ戴キタイト思フ、ソレハ簡單ニ申上ダマスガ、此輸出ト輸入ノ差ニ依テ起ル所ノ輸入超過ノ六億圓ト云フモノハ、直截簡明ニ申シマスレバ、是ハ勞働ノ輸入デアル、隨テ我ガ勞働界ヲ非常ニ脅威スルモノデアルト云フコトヲ申上ダタ——勞働ヲ商目覽タヤウニ申上ダテハ如何カト存ジマスケレドモ、假ニ勞働ヲ價格ニ換算シテ見

實デナイカラデアルノデアル、此信用ノ確
實デナイト云フモノハ、先刻モ申ス通り或ハ

我ガ商人ノ持出ス所ノ品物ガ整フデナイ、
或ハ荷受ヲスル所ノ外國ノ商人ノ身元ガ不

十分デアル、輸出スル人ノ資力ガ不十分分
アル、或ハ往々ニシテ約束ニ違フテ、見本

通リノ品物デナイカラシテ、是ハ荷受ヲシ
ナイト云フヤウナ場合ガ屢起ルノデア

ル、其主ナル原因ハ詰り品質ノ揃ハザル點、
見本通りノ品物ガ出來ナイ點、或ハ荷造りガ

惡クテ途中デ損ジタ、サウ云フ苦情ガ多イ
ノデアル、左様ナ缺陷ヲ補フコトガ即チ根

本政策デアル、之ヲ補ハントスルガ爲ノ組
合法デアル、此缺陷ガ無クナツタナラバ、即

チソコニ十分ナル信用ガ生ズルノデアルカ
ラシテ、丁度今日爲替銀行ガ外國銀行ノ信
用狀ヲ以テ我國ノ品物ヲ買ニ來ル者ニ對シ
テ與ヘルト同様ナ、完全ナ信用ヲ以テ此手

形ヲ買取ルコトガ出來ルノデアル、又中ニ
ハ我國ノ爲替銀行ハ輸出商人ノ信用ノ程度
ニ依リテ、十萬圓ノ價格ノ物ヲ出スノニ、甲

ニ八十万圓全部金ヲ融通シテヤル、或者ニ
ハ八掛取ルコトガ出來ルノデアル、各違

フ、此違フノモ畢竟矢張信用ノ程度が違フ
カラデアル、ソコデ單獨ノ經濟ニ屬セシメ

ズシテ、團體組織ノ經營ニ依リテ此信用ヲ
高メ、品物ヲ揃ヘテ多量ニ造ラセルト云フ、
此組合法ノ精神ハソコニ在ル、今日是ガ爲

ニ若シ直接政府ガ低利ノ資金ヲ貸ス——震
災後ノ手形ニ對シテ政府ガ一億ノ危險ヲ負
ウテ居ル、其保證ヲシタノト同ジニヤッタ

ヲ政府ガ保證スルト云フノハ、一體誰ニ對
シテ保證シタノダ、日本銀行ニ對シテ保證
シタノデアル、日本銀行ノ損失ハドウ云フ場

合ニ於テ、政府ハ一億マデハ日本銀行ニ對
シテ保證シテ、政府ガ負擔シテヤルト云フ
コトデアル、日本銀行ノ損失ハドウ云フ場

合ニ出來ルノデアル、此手形ヲ振出シタ人
ガ日本銀行ニ直接取引シテ居ルノデナイノ
デ、何レモ他ノ普通銀行ガ間ニ入シテ居ル、
普通ノ銀行ガ破産ヲシタ時デナケレバ日本

銀行ノ損失ハ生ジナイノデアル、責任ハ主
ニ副議長(小泉又次郎君) 日程第五、右各

ニ普通銀行ニ在ル、故ニ其手形ハ政府ガ一

億保證シタケレドモ、其保證ガ事實役ニ
立テ日本銀行デ一億ノ損失ヲ拂ハナケレ
バナラヌト云フ損失ガ生ジタラ、一時財界

ハ暗ニナル、幾多ノ銀行ガ破産シナケレバ
サウ云フ事ハ生ジナイ、故ニ各銀行モ矢張
ソニニ信用ノ程度ヲ量ルノデアルカラ、玉

石混同シテハ坂ハナイ、良イ手形ハ良イ手
形デ取扱シテ、惡イ手形ハ成ベク早ク整理ヲ
サシテ始末ヲシテ行クト云フヤウニ、銀行
自ラ其玉石ヲ區別シテ手形ヲ取扱シテ、今

日整理ノ過程中ニ在ル——過渡中ニ在ル、
如何ニ政府ダカラト云フテ損失ヲマルデ政
府ガ負擔シテヤルト云フ譯ニ行カナイ、相

當ニ信用ヲ確メ、各、信用ヲ高メルト云フ
コトハ、本人自身等ガ努力ヤウニ、專ラ
促シテ行カナケレバナラズ、指導シナケレ
バナラヌノデ、政府ガ唯信用局ノヤウナ
モノヲ造ツテズン(融通シテヤッタラ宜カ
ラウト云ウタラ、何時マデ經ツタ)テモ此商業
ノ道徳ト云フモノハ進マナイ、貿易上ノ非
難ハ依然トシテ外國カラ受ケルノデ、其組
織ニ依リテ改メテ行クノハーツノ主ナル仕
事デアル、ソレニ向シテ今政府ハ施設セ
ントルノデアル、サウ云フ譯ニ信用局ナ
ドモ英吉利アタリデハ餘り效果ガ舉ツテ
居ラヌ、何故舉ラヌ、矢張信用デアル、ドン
ナモノデモ宣イ、外國ニ持テ行ケ、損シタ
ラ政府ガ償テヤル、サウ云フ趣意デナイ、
矢張銀行ガ間ヘ入テ、丁度今申シタ日本
銀行ト手形振出人ノ間ニ普通銀行ガアブテ、
信用ヲ相當ニ調査シテ損失ノ生ジナイヤウ
ニヤッテ居ル、ソレト同ジ方法ナンダカラ、
餘り是ハ役ニ立テ居ラヌ、併ナガラ一ツ
ノ獎勵ニハナル、斯ウ云フモノヲ含括ヘタ
カラト云シテ、質問者ノ言フカ如ク之ニ依
テ貿易ガドン——盛ニナルト云フ譯ニ行カ
ナイ、矢張本カラシテ養ハナケレバイカナ
イカラ、斯様ナ組合法ヲ設ケテ其根本カラ病
ヲ除ク、缺陷ヲ補フト云フコトニシテ行カ
ナケレバナラヌ、ソレヲ政府ハ考ヘテ居ル
ノデアリマス

案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト
致シマス

第五 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員

ノ選舉

○作間耕逸君 兩案ヲ一括シテ委員ノ數ヲ

特ニ十八名トシ議長ニ於テ指名セラレンコ
トヲ望ミマス

(「賛成」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ
御異議ナイト認ノマス、仍テ其通り決シマ
ス——日程第六乃至第九ハ、同一委員ニ付

託シタル議案ナルニ依リ、一括シテ議題ト
スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認
メマス、仍テ日程第六、在外國帝國專管居

留地特別會計法廢止法律案、日程第七、陸
軍營繕費補充資金特別會計法廢止法律案、
日程第八、大學特別會計法中改正法律案、日

程第九、朝鮮醫院及濟生院特別會計法廢止
法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長

ノ報告ヲ求メマス、委員長笠原忠造君

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認
メマス、仍テ日程第六、在外國帝國專管居

留地特別會計法中改正法律案、日程第七、陸
軍營繕費補充資金特別會計法廢止法律案、
日程第八、大學特別會計法中改正法律案、日

程第九、朝鮮醫院及濟生院特別會計法廢
止法律案(政府提出)

第六 在外國帝國專管居留地特別會計
法廢止法律案(政府提出)

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

一 在外國帝國專管居留地特別會計法廢止
法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

大正十四年二月一日

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

一 在外國帝國專管居留地特別會計法廢止
法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

大正十四年二月一日

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

一 在外國帝國專管居留地特別會計法廢止
法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

大正十四年二月一日

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

一 在外國帝國專管居留地特別會計法廢止
法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

大正十四年二月一日

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

候此段及報告候也

大正十四年二月一日

陸軍營繕費補充資金特別會計法廢止法律案
委員長

會計法廢止法律案

衆議院議長柏谷義三殿 笠原 忠造

第八 大學特別會計法中改正法律案
(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一大學特別會計法中改正法律案(政府提
出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一大陸軍營繕費補充資金特別會計法廢止
法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

大正十四年二月一日

第一 読會ノ續(委員長報告)

報告書

會計法廢止法律案

委員長

衆議院議長柏谷義三殿 笠原 忠造

會計法廢止法律案

委員長

ノ買入、道路ノ築造、埋立、護岸工事ト云
フヤウナ事業ヲ經營シテ參々タノデゴザイ
マス、然ルニ此事業ノ大半ハ終了ヲ致シマ
シテ、唯僅ニ天津ノ護岸工事ガ残シテ居ル
ノミデアル、此護岸工事ハ天津ニ居ル居留
民團ニ直接經營サセル豫定ニナツテ居ルノ
デ、最早此法律ヲ存スル必要ガナイカラ廢
止シタトイ云フ理由デゴザイマス、委員會
ニ於テハ質疑答ヲ重ネマシタ所、會計法
ノ整理ニ伴フ當然ノ事デアリテ、相當ノ理
由アルモノトシテ、全會一致ヲ以テ可決致
シマシタ、次ニ陸軍營繕費補充資金特別會
計法廢止法律案ニ付キマシテ申上ゲマス、
此特別會計法ハ明治四十二年設定セラレタ
ルモノデアリマシテ、陸軍ノ保有スル土地
建物ヨリ生ズル所ノ收入其他附屬ノ雜收入
ヲ以テ一ノ資金ヲ作りマシテ、ソレニ依
テ陸軍ノ土地建物ヲ利用スル所ノ費用、其
他營繕ノ費用ノ一部ニ補充シテ參々タノデ
アルサウデゴザイマス、然ルニ斯ウ云フ資
金ヲ持ツモノハ唯、獨リ陸軍ノミデアリテ、
他ノ省ニハ斯ウ云フ費用ガ無イノデアル、
他省ト較ベマシテ權衡ヲ得ナイト云フコト
ガ一ツ、又陸軍ニ於テモ今ハスル費用ノ必
要ガ無イト云フコトガ一ツ、此理由ヲ以テ
整理ヲシタトイ云フ理由デゴザイマス、委
員會ニ於テモ相當ノ理由アルモノトシテ、
全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、次ニ大學
特別會計法中改正法律案ニ付キマシテ申上
ダマス、是ハ是マデ東京帝國大學及京都帝
國大學ノ豫算ハ法律ヲ以テ政府ノ支出金ノ
定額ヲ定メテアルノデアリマス、然ルニ從
來ノ經驗ニ依リマスト、年々此定額ニ異動
ヲ生ズルノデ、其度毎ニ法律ヲ變更スルコ
トハ如何ニモ煩雜デアル上云フ點ヨリシテ、
年々豫算ヲ以テ定メタトイ云フノガ一ノ理
由デアリマス、モウ一ツノ理由ハ東京帝國
大學ノ豫算ハ法律ヲ以テ政府ノ支出金ノ
定額ヲ定メテアルノデアリマス、然ルニ今回ハ之
ヲ整理シテ大學特別會計法ト云フモノニシ
タトイ云フコトガ改正ノ一點デゴザイマ
ス、共ニ相當ノ理由アルモノトシマシテ、
委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、

次ニ朝鮮醫院及ビ済生院特別會計法廢止法
律案ニ付テ申上ダマスガ、是ハ朝鮮ニ小鹿
島慈惠病院ト云フモノガアリマスルガ、其
外各地ニ在ル慈惠病院ヲ其地方ニ移管スル
ト共ニ、朝鮮總督府ノ病院及済生院ノ特別
會計法ヲ廢シテ、總督府ノ一般會計ニ移ス
ト云フノデアリマス、是モ會計法整理ノ上
カラ當然ノ事ト認メマシテ、委員會ハ全會
一致ヲ以テ可決致シマシタ、以上御報告申
上ダマス

○副議長(小泉又次郎君) 各案ノ第二讀會
ヲ開クコトヲ御許リ致シマス

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ

者アリ

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ

○副議長(小泉又次郎君) 各案ノ第二讀會
ヲ認メマス、各案トモニ二讀會ヲ開クコトニ
決定致シマシタ

○作間耕逸君 四案ヲ一括シテ直ニ第二讀
會ヲ開キ、第二讀會ヲ省略シテ、何レモ委
員長ノ報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミ
マス

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイモノ
ト認メマス、各案トモニ二讀會ヲ開クコトニ
決定致シマシタ

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ

者アリ

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイモノ
ト認メマス、各案トモニ二讀會ヲ開クコトニ
決定致シマシタ

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ

員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコ
トヲ望ミマス、但シ猪毛毛利榮君ニ係ル懲
罰犯ノ件ハ、此際其審議ヲ留保セラレント
コトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ノ聲起ル

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ハ
御異議ナイト認メマス、仍テ日程ハ變更サ
レマシタ——被罰犯ノ議事ハ祕密會ナル
ガ故ニ、傍聽人ノ退場ヲ命ジマス

議員原物兵衛君牧山耕藏君徵罰事犯ノ件
〔午後六時九分祕密會ヲ終ル〕

○副議長(小泉又次郎君) 祕密會ノ結果ヲ
報告致シマス、祕密會ニ於テハ議員原物兵
衛君、同牧山耕藏君徵罰事犯ノ件ヲ議決致
シマシタ、仍テ此決議ニ基イテ宣告ヲ致シ
マス、議員原物兵衛君ニ對シ議院法第九
十六條第一項第三號ニ依リ、二週間ノ出席
停止ヲ命ジマス(拍手)、議員牧山耕藏君ニ
對シ、議院法第九十六條第一項第三號ニ依
リ、二週間ノ出席停止ヲ命ジマス

〔拍手起り「横暴」ト呼フ者アリ〕

○作間耕逸君 残餘ノ日程ニ對シテ延期ノ
動議ヲ提出致シマス

〔贊成〕〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 作間君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリ
マセヌカ

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(小泉又次郎君) 御異議ナイト認
メマス、仍テ許可致シマス、次回ノ日程ハ
公報ヲ以テ御通知致シマス、今日ハ是ニテ
散會致シマス

午後六時十二分散會

官報號外

大正十四年一月六日

衆議院議事速記錄第十號

一七八